

タイトル

見つめよう自分、見つめよう友達。

A
01

所属	名古屋市立守山小学校	実践者	岩崎 晋
対象	小学6年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	道徳・学級活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分、友達について考えることにより、多様性(ちがい)について理解する。 ・多様性の良さに気づき、多様性を受け入れる態度について考える。 ・友達の良さを見付ける活動を通し、自分の良さ、友達の良さを受け入れる態度を育てる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○多様性があることを理解する。</p> <p><u>自分を知ろう, 友達を知ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と同じところ, 違うところを明確化させるため, 自分について考える。 ・仲間探しゲームを通して, 多様性があることを理解する。 	アイスブレイキング 「仲間探しゲーム」
	2	<p>○多様性について考える。</p> <p><u>多様性がある世界, 多様性がない世界</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性がある世界の良いところ, 悪いところ。多様性のない世界の良いところ, 悪いところについて話し合う。 ・活動を振り返る。 <p><u>多様性を受け入れるために必要な態度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性を受け入れるために必要な態度について話し合う。 ・活動を振り返りながら, 自分が大切にしたい態度を決める。 	ポップコーン方式で意見を出し合い, 対比表にまとめる。 ブレインストーミングで意見を出し合う。
	3	<p>○友達の良いところを見付けよう(その1)</p> <p><u>グループの友達の良いところを見付け, 伝えよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループの中で「今日の注目の人」を一人決め, 1日の学校生活の中で, その人の良いところを残りの3人が見付ける。 ・帰りの会で, 見付けた良いところを一人ずつ, その友達に伝える。 ・活動を振り返り, 全体で共有する。 	ギャラリー方式
	4	<p>○友達の良いところを見付けよう(その2)【現在実践中】</p> <p><u>クラス全員の良いところを見付け, 伝えよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日, クラスの中で一人「今日の注目の人」を決め, その人の良いところをクラスの全員が見付ける。 ・帰りの会で見付けた良いところを一人ずつ, その友達に伝える。 ・活動を振り返り, 全体で共有する。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分を知ってもらえた」「友達のことが分かった」という思いから, お互いの距離が縮まった。 ・多様性を受け入れる態度を育てることで, お互いを認め合う姿が多く見られるようになり, 話し合い活動なども, 以前より活発でスムーズに行えるようになった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・このような活動を繰り返し, 広い視点でお互いの良いところを見付けられるようにしたい。 ・明らかになった自分の良さを発揮できるような活動の場を考えていきたい。 		
備考			

タイトル

多様性は豊かさ

A
02

所属	愛知県国際交流協会	実践者	大竹 美樹
対象	小学生～一般	時間数	4時間
場所	JICA 中部なごや地球ひろば	実践教科	国際理解教育セミナーinなごや
ねらい	<p>1. 人も世界も多様であることを実感し、自分（自国）との違いを楽しむ</p> <p>2. 自分（自国）の当り前は、他者（他国）の当り前とは限らないこと、自分の価値観は知らず知らずのうちに自分の中に、自分にもある固定化されていることに気づく</p> <p>3. 「違い」を排除や対立の対象とするのではなく、「多様であること」を肯定的に受けとめ、多様性を生かしあう社会こそが豊かな社会であることを確認する</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【120分】</p> <p>① アイスブレイキング 世界のあいさつをしながらうちとける</p> <p>② グループで自己紹介</p> <p>③ 世界の国々の名前や場所を知る</p> <p>④ 世界の地域の分け方を理解する</p> <p>⑤ MEET the WORLD クイズ 世界の多様な国々について、クイズを通して知る</p> <p>⑥ 日本を世界に知らせよう 日本についてよく知らない外国の人に、「日本ってこんな国」だと知ってもらうためのクイズをグループで考え、全体で共有する</p> <p>⑦ 第1回で気づいたことを発表</p>	<p>①資料1.世界のあいさつカード</p> <p>②A4裏紙、マジック</p> <p>③白地図の世界地図 P.131</p> <p>④資料1.世界の地域の分け方</p> <p>⑤資料2. MEET the WORLD クイズ</p> <p>資料3. クイズ解答</p> <p>⑥模造紙</p>
2	<p>【120分】</p> <p>① 自分の当り前と他者の当り前 日本に暮らす私たちにとっては「当たり前」のことでも、広い世界を見渡してみると、世界の当たり前とは限らないことを知る</p> <p>② わたしの当り前は世界の当り前？ 自分が大事にしていること／もの／やり方／などをバカにされたり否定されたら？どんな気持ちになるのか想像し、グループごとに派生図を作り、ギャラリー方式で他のグループの派生図を見たあと、派生図から気づいたことをグループごとに全体に発表</p> <p>③ 「違うものを受け入れなかった人たち」の歴史から学ぶ 誰が何を受け入れなかったために問題が起きたのか、各自資料を読んでわかったことをグループで共有する</p> <p>④ 多様性を認める社会のよさや豊かさについて考える 「自分とは違うものや、違う考え、違う方法があることを認め合う」「それぞれに異なる1人ひとりを大切にすると、どんなことが起きるかをグループで派生図で考える</p> <p>⑤ 「多様性を認め、だれもがその人らしく、みんなと仲良く暮らせる社会」の実現のためにできることをそれぞれ付せんを書いて、全体で共有する</p> <p>⑥ 第1回、第2回で気づいたことを発表</p>	<p>①資料4. わたしの当り前=あなたの当り前？</p> <p>②模造紙</p> <p>③資料5. ①～⑤</p> <p>④模造紙</p> <p>⑤ホワイトボード付せん</p>	
成果	各グループで作成した成果物を全体共有することにより、参加者が自分のグループでは出てこなかった事に気づけ、「多様性は豊かさ」の意識を高めることができた。		
課題	<p>・場の雰囲気づくりが難しかった。ワークショップ参加者の意見発表後に場をつなぐコメントが難しかった。</p> <p>・グループワークで、早く作業が終わったグループと、未だ終わらないグループの時間の折り合いをつけるところが難しかった。</p>		
備考	共同実施者他1名 資料「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」(公財)愛知県国際交流協会		

タイトル

世界最高のリゾートを作ろう

A
03

所属	愛知県立南陽高等学校	実践者	杉浦 修平
対象	高校1・2年生、名古屋学院大学の留学生 名古屋学院大学の学生	時間数	2時間(1回講座)
場所	名古屋学院大学	実践教科	総合探究実践
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生とアクティビティを通して異文化に触れ、自分の価値観を広める。 ・世界に住む人たちにとっての“最高”を考え、他国と人たちの考えに気づく。 		
実践内容	時間	プログラム	備考
	10分	【アイスブレイク①】左隣の人が手を叩いたら、すぐに手を叩こう！	体を動かしてコミュニケーションを取る
	15分	【アイスブレイク②】自分の場所へ動こう！ いくつかの質問に答え、自分の答えの場所へ移動しよう！	
	15分	【アイスブレイク③】1つはホントで1つは嘘 私が行った最高の場所をみんなに説明しよう！1つは実際に行ったことのある場所、もう1つは行ってみたい場所をみんなに嘘と気付かれないように発表します。 【世界最高のリゾートを作ろう】 自国だけでなく、世界の人が行きたいと思えるような理想のリゾートをグループで話し合ってつくりあげる。以下の3点について考える。	A4の紙に国名を書く (発表)
	15分	①【まずは個人で！！】 ①レストランに出す料理を考えよう ②リゾートのお店に出す商品を考えよう(お土産も含む) ③リゾートにふさわしいエンターテイメントを考えよう	付箋に思いついたものを をどんどん書く (ブレイクストーミング)
	20分	②【次はグループで共有！！】 意見をグループ内で発表し、考えを共有する。	
	15分	③【グループでランキング付け！！】 それぞれの項目についてリゾートにふさわしいアイデアを6個選ぶ。	(ランキング付)
20分	④【最後は発表！！】 発表後、投票し、ナンバーワンリゾートを決める。	グループごとに模造紙 にアイデアを書く。 (発表)	
成果	開始直後は日本語を母国語としない留学生との交流が積極的にできず、戸惑う生徒も多かったが、アイスブレイクや活動を通して積極的に会話ができるようになった。簡単な英語や日本語でお互いの意見を伝えることができ、海外の人を身近な存在と考えられるようになった。また、留学生だけでなく、友人の価値観も知ることができた。活動を通して自分の意見を発表する積極性と、日本人だけでなく世界中の人たちにとっての“最高とは”について深く考えることができた。		
課題	アイスブレイクでは本校生徒の緊張から盛り上がるのに時間がかかってしまった。グループ内で同じ意見が多かったため、価値観の違いがより出るような設問作りが必要であった。また、1グループ5～6人で活動をしたが、より多くの人と話すためにグループを変える機会が必要であった。		
備考	南陽高校のアクティブチャレンジ事業の一環で行われたアクティビティです。午後は白鳥庭園で留学生を招いて、本校生徒によるお茶会を開催しました。		

「多文化共生」を考える

所属	三重県教育委員会(四日市市立中部中学校)	実践者	永野 智美
対象	中学2年生	時間数	3時間×3クラス
場所	教室	実践教科	人権・道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な世界と肯定的に出会い、違いを認め合う。 ・日常の生活を振り返り、仲間を尊重する気持ちをもつ。 ・多文化共生社会を実現するために、自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	発見！世界って、おもしろい ① 世界の挨拶カードを用いて、グループをつくる。 (フィリピン・中国・タイ・インドネシア・韓国・ガーナ・フランス・ペルー) ② グループごとに配布されたクイズカードを用いて、衣食住・生活習慣・学校生活など、その国について知るためのクイズに答える。 ③ 「他のグループに伝えたいこと」を3つ選び、ホワイトボードに記入する。 ④ 各グループから発表し、全体で共有する。 ⑤ 担当した国の「ありがとう」で、同じグループの人にお礼を言って、自分の席に戻る。	挨拶カード クイズカード ホワイトボードセット 「ありがとう」プリント
	2	「言葉」から考えよう ① 教師のロールプレイを見て、気づいたことなどをワークシートに記入する。 ※外国人にとって分かりづらいと思われる会話を取りあげる。 〈シーン1〉「つまらないものですけど」という謙遜する表現 〈シーン2〉「よろしいですか」「はい」という解釈の違いがある表現 ② 全体で意見交流を行う。 ③ 日常生活を振り返り、同じような経験はないか話し合う。(班→全体)	台詞カード ワークシート
	3	「外国人も日本人も共に暮らしやすい社会」について考えよう ① パワーポイントを用いて、三重県や四日市市にも多くの外国人が生活していることを知る。 ② 「外国人も日本人も共に暮らしやすい社会にいくために大切なこと」を考える。(班で話し合っ、ホワイトボードに記入する。) ③ 回し読み方式で交流する。 ④ 「今日から、自分にできること」を考える。 (個人で考えて、短冊に記入する。) ⑤ 短冊を黒板に貼り、全体で意見交流を行う。	パソコン プロジェクター パワーポイント ホワイトボードセット 短冊
成果	外国人生徒の経験や思いを学級の中へ伝えるとともに、コミュニケーションの重要性についても考えることができた。仲間との関わりや自分自身の行動を振り返るきっかけとなり、生徒の意識や行動に変容が見られた。		
課題	全体的に内容を詰め込み過ぎたため、振り返りの時間を十分に確保することができなかった。単発のものとせず日常生活へとつなげていくこと、系統立ったカリキュラムの構築が必要である。		
備考			

タイトル

①地球の食卓 / ②インドネシアを学ぼう！

A
05

所属	はままつ国際理解教育ネット(静岡県立大学)	実践者	野村 満里奈
対象	①中学生～一般/②大学生	時間数	①1時間/②3時間
場所	①クリエート浜松/②田原市渥美文化会館	実践教科	講座
ねらい	<p>①フォトランゲージで食の多様性や人のいろいろな見方を知り、同時に食のありがたさを知る。また、既存のワークショップを体験、振り返りを行うことで実践につなげられるようにする。</p> <p>②自己や他者を知ること、異文化理解にもつながることを実感してもらう。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	①	<p>「アイスブレイク」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介と自分の好きな食べ物を話す。 <p>『地球の食卓』を体験、ふりかえりをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで用意された写真から読み取れることを模造紙に書き込む 模造紙を裏返し、別の写真にも同じように書き込む 他のグループのものをギャラリー方式で見る。新たに書き足す。 改めて気付いたことを考える ねらいを考えてもらい、どのような手順で行なったか確認する ねらいの種明かしをして、フォトランゲージという手法を説明する 	<p>グループ分け: 5人ほどで1グループになり4つ作る</p> <p>フォトランゲージ (最初は先進国の写真で、裏側は途上国の写真である。組み合わせは2グループ同じに)</p> <p>参考文献 *「地球の食卓」開発教育協会</p>
	②	<p>アイスブレイク「4つの私、ひとつはウソ！」</p> <p>「私は〇〇、あなたは…？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターが用意したお題に対して、参加者が自分なりの答えをだす (私が日本人として誇りに思うこと、残念に思うこと など他4つ) <p>「日本の常識、世界では…？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「外国人から見たニッポン」シートを読んでもらい、日本人として当てはまると思ったこと、こう思われたくないという内容を挙げ、書く 世界の国名を挙げ、その国々のイメージを言ってもらう シートを読んでもらい、さきほど国のイメージから変化があったか話し合う。異文化理解するうえで必要な視点・行動の仕方は何か考える。 <p>「日本とインドネシアのつながり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料なしで、日本とインドネシアの「同じところ、ちがうところ、つながり」を考えてもらう 学校事情、食べ物、文化などが書かれた資料を読む 上記の3点を用紙にまとめる 	<p>話す上でのルール(否定しないことなど)も説明</p> <p>参考文献 *「外国人から見たニッポン」岸 周吾 「わたしたちの地球と未来」愛知県国際交流協会</p>
成果	<p>①ファシリテーター養成講座として初めて、既存WSの体験とふりかえりをおこなうことができた。</p> <p>②話す上でのルールの提示があったため、躊躇なく意見が言えたという声や、他者理解→異文化理解へと入っていったことでわかりやすかった。今後の生活で役に立てたい、という感想を参加者からもらった。</p>		
課題	<p>①ファシリテーターとして前に立った時の「話し方、問いかけの仕方」が難しかった。より経験を積みたい。</p> <p>②異文化理解の視点を考えるときに、参加者が考えづらそうだったので少し誘導する形になってしまった。より深められるようなプログラムづくりが今後の課題と言える。</p>		
備考	<p>①は、はま国のファシリテーター養成講座の中でおこなったワークショップである。②は大学の研究の1つとしておこなった。このワークショップのあと成果物を使い、インドネシア人との交流会に役立てた。</p>		

タイトル

ちがってるから おもしろい

A
06

所属	愛知県大府市立共長小学校	実践者	浜島 直美 (L)	
対象	小学6年生 (36名)	時間数	8時間	
場所	6年3組 教室	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には、多様な人種や文化があることを実感できる。 ・日本とラオスの生活を比べて、それぞれの良さを認めることができる。 ・文化や生活の違いを否定せず、肯定的に受け止め、分かり合おうという気持ちをもつことができる。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1-2	ラオスってどんな国？ <ul style="list-style-type: none"> ① 教師海外研修で撮ったラオスの写真を見る。 ② ラオスクイズに挑戦する。 ③ 日本との違いを見つける。(学校・食事・遊び等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの地球と未来 ・パワーポイント 	
	3-4	読めるかな？ <ul style="list-style-type: none"> ① 世界で使われている文字を知る。 ② ラオスの文字を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの文字で書かれた自分の名札をさがす。 ③ ラオスの文字の秘密(共通点)を見つける。 ④ ラオス探検隊(クイズ) <ul style="list-style-type: none"> ・どちらのジュースが飲みたいですか？ ・暗号を解け 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオス語で書いた名札 36名分 ・ラオス語(毒・薬) ・オレンジジュース2本 ・問題用紙 	
	5-6	世界ふしぎ発見 <ul style="list-style-type: none"> ① 世界の不思議をさがす。 ② 世界の不思議を付箋に書き、世界地図に貼る。 ③ 違いを共有し合い、各国の面白さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁掛け用世界地図 ・付箋 	
	7	あたりまえの秘密 <ul style="list-style-type: none"> ① あたりまえだと思うことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙にまとめる。 ② 自分のあたりまえは世界に通じるのかを考える。 ③ 子どもの権利条約について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップコーン方式 ・模造紙 ・詩「そのこ」 ・子どもの権利条約 	
	8	違っているからおもしろい！ <ul style="list-style-type: none"> ① 自国と他国、私とあなたを比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ「私の当たり前＝あなたの当たり前？」 ・世界中が同じだったら……。 ② それぞれの良さを認める大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対比表 	
	成果	「ラオスってどこ？」→「ラオスは日本とは違う面白さがある」→「世界には不思議なことがいっぱいある」→「考え方が違うから面白い」このように児童の考え方が変わった。人の考え方は色々あり、否定せずに聞くと、自分にプラスになることがたくさんあることに気付くことができたのではないかなと思う。		
	課題	クイズやゲームなど楽しみながら学習することができたが、深めるためには、まだまだ時間が必要である。学んだことから、自分の興味・関心を見つけ、調べ学習を通して深めていけるように考えている。		
備考				

タイトル

違いをともに生きる わたし あなた みんな

A
07


所属	愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター	実践者	福原 春菜
対象	大学2年生(交流文化学部 17名)	時間数	1時間半
場所	愛知淑徳大学 教室	実践教科	講義
ねらい	暮らしの中にある様々な「違い」を見つめ、そこから生まれる「対立」を「価値」へと変えていける社会づくりのために、私たちの地域の中にある課題に気づき、より良い未来を築いていくために、一人ひとりがどんなアクションができるか考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション「ねらい・今日の目標」 ・アイスブレイク「仲間づくり・仲間こわし」 (未成年 or 成年、愛知県 Or 岐阜県 or 三重県 or その他、目玉焼きに何をかける？好きな季節は？→グループづくり) ・自己紹介「我が家のルール」 我が家にはこんな家訓・ルールがあります！ ★アクティビティ①「違いを見つけ出そう！」 世の中にはどんな人がいる？ 「違い」を見つけ出そう！ 「違いから生まれる対立にはどんなものがある？」 ●事例紹介「私が出会った世界のこんな人たち」 ●資料読み「世界がもし100人の村だったら」 「世界人権宣言・子どもの権利条約」 ★アクティビティ②「今わたしたちがここにいるのは・・・」 何が守られていてここにいられることができるのか、必要なものを書き出し、関係のあるものと線を結ぶ。 ★アクティビティ③「すべての人たちがしあわせに自分らしく生きるために必要なもの」 ・振り返り「そのために私たちが大切にしたいこと3か条」 ・感想共有、メッセージ 	<p>4グループ</p> <p>個人ワーク【A4】 派生図【模造紙】</p> <p>プリント写真</p> <p>派生図、因果関係図 【模造紙】</p> <p>派生図、因果関係図 【模造紙】 ギャラリー方式 個人ワーク【A4】</p>
成果	終了後の感想として、「自分の当たり前は誰かにとっては当たり前でないかもしれない。」「知らない世界を自分の足で見つけにいきたい。」「国際理解教室を深めていきたい、実践していきたい。」などの声を聞くことができた。		
課題	90分という短い時間の中で、ストーリー性のあるプログラムを組み立てることが難しかった。また、今回は授業の中の一枠として単発で終わってしまったので、次回実施する際には、90分×3回のシリーズで、学部学年も混合のかたちで取り組みたい。		
備考			

タイトル

ガーナへ行こう！学校へ行こう！

B
08

所属	愛知県豊田市立崇化館中学校	実践者	伊藤 実知子 (G)
対象	中学1年生	時間数	10時間
場所	教室	実践教科	道徳・総合・学活
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートをきっかけに、ガーナと日本のつながりを知る。 ・ガーナに興味を持ち、世界と日本の学校の違いを肯定的に理解する。 ・ガーナの小学生の現状を知り、学ぶことの大切さと貧困問題について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「ガーナの子どもって？」 ・アフリカに対するイメージを班で紙に書く。〈ブレインストーミング〉 ・その後、ビデオを視聴し、感じたことを書く。	○ビデオ 「カカオ畑で働く子どもたち」
	2	「世界の学校へいこう！」 ・世界の学校について知っていること、聞いたことがあることを共有する。 〈ポップコーン方式〉 ・2人1組で世界の学校と日本の学校の「ある・ない」をまとめる。〈紐表〉 ・他のペアの対比表を見て、世界の学校について知る。〈ギャラリー方式〉 ・世界の学校についての感想と、ガーナの学校で見たいものを書く。	○資料 「世界の学校」 (愛知国際交流協会資料)
	3-4	「日本の学校を紹介しよう！」 ・世界の学校について知ったことから、日本の学校特有のことを紹介する資料を班で作る。	○備品 A4紙、色マジック、写真等
	5	「ガーナってどんな国？」 アイスブレイキング:「仲間さがし、仲間こわし」 ・ガーナクイズ(国旗、生活、学校、食べ物、JICA、トヨタ車) ・ガーナクイズの解答・解説と実物を体感しよう。	○パワーポイント クイズ用写真 ○実物 国旗、芸者、太鼓、FUFU等
	6-9	「ガーナの学校を紹介しよう！」 アイスブレイキング:「傾聴」 ・班でガーナの学校についての資料を読み解く。〈担当読み〉 ・自分たちが作成した「日本の学校紹介」のガーナ版を作る。 ・ガーナの学校についてクラスでプレゼンし、感想を書く。	○資料 「ガーナの学校」 (2011年 JICA) ガーナ研修の画像
	10	「チョコレートから知る、ガーナの教育」 ・「69」という数字が物語るもの ・チョコレート食べ比べ(これから自分たちにできることを考える)	○備品 ガーナチョコ(ロchette) フェアトレードチョコ
成果	参加型の授業で生徒一人ひとりの意見が出やすく、独りのつぶやきも拾うことができた。写真や実物に触れたり、教師の話を聞いたりすることでアフリカやガーナに興味関心を持ち、意欲的に活動できた。ガーナについて肯定的に捉えられるようになった。		
課題	考えを深める時間や振り返りに時間がかかり、50分の授業では十分にまとめきれなかったりした。ガーナと日本の相違点に気がつき、自分たちにできることを考えることはできたが、世界やガーナが抱える問題点について深く考えることができたかが疑問である。		
備考	クラス単独での活動であったため、時間確保に苦戦した。当初3時間程度の実践予定であったが、やり始めると伝えたいことが多く、時間確保のため生徒に負担をかけた。しかしガーナ授業を心待ちにするようになった生徒の協力で予定の倍以上の時間を確保できた。		

所属	名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会	実践者	岡村 早希子
対象	小学生～一般(小・中学生・高校生・大学生・親子・一般)	時間数	2時間(120分)
場所	ウィルあいち・セミナールーム1	実践教科	講座
ねらい	① 世界にはたくさん問題・課題があふれていることに気づく ② フェアトレードの可能性を探り、知る		
実践内容	時間	プログラム	備考
	10分	あいさつ、ワークショップ & アイスブレイキングの説明	(WSのお願い事) 皆が平等な立場の空間 批判・非難しない
	10分	【アイスブレイキング】・A4の名刺(4つに仕切って中心に自分のマーク) 自己紹介(マイグーム・自分のイ所・尊敬する人・好きな色)	
	5分	【グループ分け】・「秋と言えば?」→参加者に質問する。 グループ数の言葉を出してもらい、日本の季節を感じる。	A4紙
	5分	【グループ内で自己紹介】・「〇〇に行きたい〇〇です」	付箋、ペン、模造紙
	25分	【アクティビティ①】 (7分)・今の世界、どんな問題を抱えているんだろう? →各自、付箋に思いついた問題を書いていく (3分)・付箋を模造紙に貼っていき、問題をグループでわけろ。 (5分)・繋がりのある問題をつなげる。出し合った問題の中で、 自分たちが関わっていると思う問題に★マークを記入する。 (10分)・各グループの発表・2分づつ(共有)	
	2分	【グループ替え】・遠い所から来た順で、2人移動	模造紙、ペン
	3分	【グループ内で自己紹介】・好きな音楽 or スポーツ「〇〇が好きな〇〇です」	(答えが分からない質問は次回 までに調べておくと伝える)
	20分	【アクティビティ②】 (10分)・FTについて、知っている事・知りたい事を模造紙に書く。 (10分)・グループ間で模造紙をまわす→答えられる質問には答えを書き込む	模造紙、ペン、A4紙
	30分	【アクティビティ③】 (30分)・FTが広まる事で解決できる世界の問題ってなんだろう? グループでひとつの問題を選び、FTが広まる事で どのように問題が解かれて、その問題が解決される事によって どんな変化が起こっていくストーリーを考えて発表する。 (絵、4コママンガ、文字、劇 etc 自由に発表する)	
10分	【振り返り】(10分)今日を振り返って感想をかく		
成果	◆様々な年代の人と平等な立場で、同じテーマについて話したり聞いたり意見交換する事により、様々な考え、思いがある事を知れた。◆世界には、様々な問題があり、それがどれも繋がっていて、自分自身にも繋がっていることに気づけた。◆アクティビティ③で悩んでいるグループがあったが発表の際には、今までに出なかったアイデアが出た。(ブラック起業でも見方によっては、フェアトレードを広める力になる)◆フェアトレードは世界を変える手段の1つであることを知る。◆もっとフェアトレードを知りたい!と関心が強まった。◆詰め込みすぎない事によってじっくり考える時間配分ができた。◆何よりみんながWSを終えて「楽しかった」と感想に書いてあったのが嬉しかった。		
課題	◆同じ人ばかり話さないように言葉をかける。◆考えが行き詰まるグループがあったら、違ったアイデアが出るように言葉をかける。◆実際にフェアトレード商品の生産者に会いに現地に行った話や、生産者がフェアトレードになってどう生活が変化したか。など話すリアルに感じる事ができるのではないかな。◆フェアトレードを全く知らずに、知りたくて来た人にとってはアクティビティ③はハードルが高く行き詰まっていたので考え直した方がよい。		
備考	◆自分が楽しむ→楽しさが伝わる→楽しく学ぶ→記憶に残る→また参加したくなる。 ◆知る→想像する→考える→行動する ◆気持ちに余裕をもつ事でユーモアがでる ◆ビーチボールの地球を飾ったり、触れる事で地球の丸さ、世界を感じる		

タイトル

貧困問題を考える。～mottainai で世界を救おう～

B
10

所属	愛知県立内海高等学校	実践者	下岡 美菜
対象	高校2年生	時間数	2時間(50分×2)
場所	2年1組教室	実践教科	英語 英語Ⅱ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ケニアをはじめ、アフリカについて知る。 ・貧困問題について考え、自分たちの生活を見直すきっかけをつくる。 ・世界との繋がりを意識し、自分には何ができるか考える力を養う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 限目	【導入】 ・英語Ⅱの教科書で学んだケニアのワンガリ・マータイさんについてくつか英語で質問をする。 ・ケニアについて○×問題形式で学ぶ。 ・ケニアに関するイメージを共有し、マータイさんの言葉 Our country is poor. から貧困について考える。 【貧困とは？】 ・資料から貧困の定義や1日1.25ドル未満で生活している人がアフリカにはたくさんいることを伝える。また、富の偏在化の表を用いて話を広げる。 【貧困に関する問題】 ・派生図を用いて貧困から起こる問題を5～6人のグループで考える。	パワーポイント データ資料 派生図
2 限目	【前回の復習】 ・前回の成果物を用いてクラスで各グループの意見を共有する。 【日本との繋がりを考える】 グループワークにより食品や商品のカードを用いてアフリカと繋がりの深いものを選ばせ、クラスで発表する。 ・アフリカのどこの国で生産されているかをアフリカの地図と照らし合わせながら確認する。 【日本の現状】 ・現在の日本の食糧自給率が39%であり、私たちの食生活は他国に頼っていることを確認する。 【自分たちにできることを考える】 ・貧困で困っている人が世界にたくさんいることを踏まえ、自分たちの生活を見直す。日常生活におけるmottainaiことをグループで話し合う。 ・クラスで意見を共有し、自分たちには何ができるかを発表する。 【振り返り】 ・国際理解を考える上で大切なことを確認する。 知ること→考えること→行動すること→伝えること を意識する。	グループワーク	
成果	貧困について漠然と知っていることを、データ資料を用いることで理解することができた。貧しいと言われる国に自分たちは支えられながら生活していることに気づき、普段の生活を見直すきっかけができた。		
課題	知ることや考えることまでは授業内で進められたが「行動する」ところまではこの授業内だけは確認できない。時間を置いて生徒がその後どのように生活を見直すことができたかを確認し、クラスでできる持続可能な国際理解教育をしていきたい。		
備考	英語の授業内で実践したため導入部分は英語でおこなえたが、ほぼ日本語でおこなう授業であった。世界との繋がりを考えることができたため、活動や発表の場面でもっと英語を生徒に使わせることで本当の意味での英語教育の実践にも繋がると感じた。		

タイトル

自分が変わる、ラオスも変わる

B
11

所属	愛知県あま市立正則小学校	実践者	杉村 定則 (L)
対象	小学6年生+全校児童	時間数	4時間
場所	体育館	実践教科	総合学習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・途上国の人々は苦しい生活をしていても、明るく生きていることを知ることができる。 ・ラオスを通して、先進国の暮らしが途上国の人々の貧困に結びついていると考えることができる。 ・外国で活躍する日本人の姿から、自分の生活を見直し、何かできることはないかを考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「ラオスを見に行こう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの生活に触れる写真を通して、ラオスに興味をもつ。 ・クイズを通して、ラオスの不思議を考える。 ・ラオスに対する考えを付箋に書き、横軸を「良い」「悪い」縦軸を「住みたい」「住みたくない」と書かれた模造紙に貼る。 ・ラオスの生活が楽しい感じがする写真を見る。 	パワーポイント クイズ 付箋
	2	「ラオスの子どもたちの叫びを伝えよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの苦しい現状を写真と映像を通して知る。 ・写真の子どもになりきって、自己紹介をする。 ・ラオスの子どもの叫びを朝礼で伝える。 	なりきり自己紹介 パワーポイント
	3	「安さの向こうに、何がある？」 <ul style="list-style-type: none"> ・バナナ農家、バナナの流通業者、スーパーで買うお客さんになりきって、バナナの値段を自分たちで考える。 ・バナナの流通経路を通して、日本が影響を与えていることに気づく。 ・途上国と先進国を比較した数値を見て、何の数かを考える。 ・ラオスで活躍する日本人の活動を知り、その人たちからのメッセージを聞く。 	バナナの流通映像 JICA で働く日本人からのメッセージ
	4	「探せ！ラオスのなかまのためにできること」 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが今からできることを考える。 ・1回目にやったことと同じように、ラオスに対する考えを付箋に書き、横軸を「良い」「悪い」縦軸を「住みたい」「住みたくない」と書かれた模造紙に貼る。 ・グループでできる取り組み3ヶ条を作りグループで発表する。 	派生図 付箋 班の3ヶ条
成果	<p>今まで総合学習の時間に、自分の好きな国について調べてきたが、誰もが先進国について調べていた。途上国の生活を知らないのに、「貧しい」というイメージだけが先行し、調べようとするのが今までなかった。今回の学習で、途上国に目を向ける児童が増えたのが良かった。</p>		
課題	<p>子どもたちにとっては派生図の作成や付箋を書いて考えを共有する活動など、初めての活動が多かったため、予想以上に時間がかかってしまった。限られた時間の中、どんな教材を使えば、より効果的なのかを考えていく必要がある。</p>		
備考	<p>子どもたちは、この学習を終えた後、総合学習のまとめとして JICA 中部「訪問プログラム」に参加した。</p>		

タイトル

教室から世界に笑顔を


B
12

所属	愛知県一宮市立奥小学校	実践者	鈴木 吾宙 (G)
対象	小学6年生	時間数	14時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	世界が抱える様々な問題を知り、それらの問題に対して自分たちに何ができるかを考え、行動する力を身に付ける。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	世界の国々を肯定的に捉える ○「世界を旅しよう」 様々な国の様子を写真や動画で紹介する。	・各国の写真、動画
	3～5	世界で起きている問題に出会う ○「無人島ゲーム」 自分たちの豊かな暮らしや、発展途上国とその地域の子どもたちの現状に気づく。 ○「世界がもし100人の村だったら」 世界の現実を参加型で体験し、人々が共生することの大切さに気づく。	・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」
	6・7	ガーナについて知る ○「ガーナの良さを知ろう」 ガーナの良いところをインターネットで調べる。 ○「ガーナの課題を知ろう」 ガーナの課題をインターネットで調べる。	
	8	ガーナの課題に対して自分たちに何が出来るかを考える ○「貧困問題に対する取り組みについて考えよう」 ○「児童労働問題に対する取り組みについて考えよう」	・絵本「その子」
	9 ～ 14	ガーナの課題の解決を目指すために行動する ～6年2組スマイルプロジェクト ガーナの友達に笑顔を届けよう～ ○「日本の遊びを伝えよう」 折り紙、福笑いの説明書を手作りで作成し、研修時に届ける。 ○「製菓会社に手紙を送ろう」 日本のチョコレートを作る製菓会社に、カカオ農園における児童労働問題への社会的取り組みのお願いをする手紙を書く。	
成果	実際にガーナの友達に、自分たちで手作りした日本の遊び説明書を届けることができ、児童たちは大きな達成感を感じていた。		
課題	貧困問題や児童労働問題に着目して取り組んできたが、ガーナはアフリカで経済的に著しい発展を見せている国の一つである。そういったガーナの元気の良さも、もう少し上手に児童に伝えられれば良かった。		
備考	「製菓会社に手紙を送ろう」は、バレンタインデーの時期をうまく使い実施する予定。		

タイトル

国際理解教育をぐっと身近に！

B
13

所属	愛知県知多市立旭北小学校	実践者	水谷 育世
対象	教職員	時間数	2時間
場所	高学年図書室	実践教科	現職教育「国際理解教育」
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育について知り、身近に感じてもらう。 ・具体的な実践方法や単元の流れを知り、実践に結び付けてもらう。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1 国際理解教育とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要※を知る。 <p>2 アイスブレイキング「4つの私、1つはウソ」</p> <p>3 世界と肯定的に出会うワークショップ「ミーツ・ザ・ワールドクイズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに違う国についてクイズを解き、他のグループに出題し、国を紹介し合う。 <p>4 世界の課題を考える「放っておくとどうなる!？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派生図を用いて考える。派生図をかく上での5つの約束を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>派生図をかくときの5つの約束</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全員が違う色のペンを持つ ②必ず自分の考えを話しながらかき込む。 ③友達の意見は否定せず、受け入れる。 ④模造紙にたくさん色の言葉が並ぶようにする。 ⑤ペンが進まない友達には「どう思う?」など声をかける。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「11の真実」を読む。 <p>5 多様性と同一性について考える「なりきり自己紹介」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、一人一人違う国の家族写真を見て、家族の一人になりきって、紹介し合う(フォトランゲージ)。 ・幸福の指標を考え、豊かさとは何かを考える。 <p>6 貧困について考える「貧困の連鎖」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困の定義と状況※を知る。 ・カードを操作しながら、グループで貧困の連鎖について考える。 ・「ムハンマドさん一家を救え!」 <p>7 経済格差について考える「貿易ゲーム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生での実践を知る。 <p>8 施設・資料の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍・ネット・貸出資料・見学プログラムを知る。 	<p>※NIED・国際理解教育センター作成資料</p> <p>「世界の国を知る・世界の国から学ぶ・わたしたちの地球と未来・活用マニュアル」(愛知県国際交流協会)</p>  <p>『地球家族』(TOTO 出版社)</p> <p>※NIED・国際理解教育センター作成資料</p> <p>「貿易ゲームのねらい」(DEAR・開発教育協会)</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを体験することで、国際理解教育を身近に感じてもらうことができた。 ・紹介したプログラムを、6年生が2学期からの総合的な学習の時間で実施し、児童の国際理解につながっている。 		
課題	1回の会では伝えきれない手法や資料がある。今後も、学校の国際理解教育担当者として、研鑽を重ねながら、教職員全体への継続的な働きかけを行っていくことが必要である。		
備考			

JRC 活動から考える世界の貧困

所属	三重県立木本高校	実践者	川上 真由子
対象	高校生(木本高校、紀南高校の JRC[青少年赤十字]部 生徒 14 名)	時間数	2時間半
場所	木本高校生物第二教室	実践教科	JRC 部活動
ねらい	普段やっている JRC 部の活動の意義を考える事で、世界の貧困について見つめなおし、自分達が出来る事を考える。(起)なぜエコキャップ、1円玉を集めているのか (承) 貧困ってなんだろう？ (転) 貧困の原因について考えてみよう (結) 貧困の悪循環を断ち切るために出来ること		
実践内容	回	プログラム	備考
	前半 12:40 ～ 13:40 後半 13:50 ～ 15:00 後日	番号でグループ分け 学年、学校がバラバラになるようにする。 0. アイスブレイキング 名前、お正月に楽しかった事を1人1つ紹介 ・エコキャップ、古切手、1円玉募金をなぜ集めるのだろうか、考えて口々に発言する。 1. 貧困とは何か考える ・「貧困」とはどういう状況かブレインストーミングする。班で A4 サイズの紙に書いていく。→ポップコーン方式で全体シェア 2. 貧困が続くとどんな事が起きるか考える ・派生図を書く。→ギャラリー方式で全体シェア 3. 貧困の原因を考える ・グループで貧困の輪カードを並べる。→全体に向けて発表 4. 貧困に関わる現状と自分との関わりを知る ・“今地球で起きている 11 の真実”を読んで自分が一番びっくりしたことに線を引く ・どこに線を引いたか、その理由と一緒にグループでシェア ・自分達にも関わっているのではないか、と思う所に線を引き、理由も考える。 ・どこに線を引いたか、その理由と一緒にグループでシェア。 5. 貧困の悪循環を断ち切るために ・日本赤十字社の取り組みをスライドで見る ・海外たすけあい募金 ・日赤職員の海外派遣 ・エコキャップ ・「世界の課題を解決する9つの方法」を読み、理解する。 どの解決方法が重要・必要であるか考えながら、 9つの方法をランキング ・JRC 部でやってみたいことを全体発表 6. 世界が 100 人の村だったら 朗読を聞く ・感想用紙記入 後日 やってみたい事として出た意見をランキングにし、理由と一緒に模造紙にまとめて部室に貼る。	A4 用紙 8 枚 ポスカ、黒板、模造紙  輪カード×4 11 の真実プリント 筆記用具  パワポスライド、プロジェクター、スクリーン 取り組みカード×20 表が書いてあるプリント 
成果	生徒の感想より「自分が知らなかった事を知る機会になった」という意見が出、新たな知識と共に自分達がやっている活動を見直す事が出来たようだった。また、自分達でやってみたい事としては、「講座やイベントに参加し様々な人とつながる」という新しい事をやってみたいという意見も出た一方で「自分達がやっている活動を少しでも長く続けていけるようにする」という今の活動への意識強化も見られ、これから両方の視点で部活動に取り組んでいく事に期待。		
課題	生徒のコミュニケーション能力や考える力に差があったため、グループによってディスカッションが盛り上がりながらなかったり、沈黙が続いてしまう事があった。グループ編成、サポートにもっと気を使うべきであった。部活動という事もあり、何か行動で示す所までが目標だとは思いますが、実際そこまで生徒主体でやるのが困難な様子であり、これから動き出すきっかけのサポートが必要そうである。		
備考	わたしたちの地球と未来活用マニュアル(愛知県国際交流協会) 世界がもし 100 人の村だったら(マガジンハウス) 日本赤十字社ホームページ http://www.jrc.or.jp/		

タイトル

みんな仲間 一緒に課題を乗り越えよう

C
15

所属	愛知県名古屋市長小幡小学校	実践者	籠谷 美紀 (L)
対象	小学6年生	時間数	20時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 世界には様々な文化があることを理解し、それらを肯定的に受け入れられる態度を養う。 ラオスのごみ問題をきっかけに、世界共通の課題に気付き、自分にできることを考え、行動できるようにする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～5	『国際理解教育入門』 1 クイズから世界を知ろう(世界に興味をもつ) ・「国名クイズ」「シルエットクイズ」「世界地図を描こう」などの活動を通して、世界の国々に興味をもつ。	世界地図 地球儀
	6～7	『世界の多様性を知ろう』 2 「ラオスクイズ①」(多様性に気付く①) ・衣食住、スポーツ、学校など、様々な様子が分かる写真クイズを通して、文化の違いや共通点を知る。	ラオスの写真 (パワーポイント)
	8	3 「こんなトイレ、知っトイレ？」(多様性に気付く②) ・世界には様々なトイレの仕方があることを理解し、人々はそれぞれ文化をもって生活していることを知る。	
	9	4 「なりきり〇〇(国名)紹介」(多様性を知る①) ・児童一人一人に異なった国の情報カードを配る。その国の人になりきり、グループの仲間に紹介する。	AIA『世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来』
	10～15	5 世界のあれこれを知ろう(多様性を知る②) ・食事や服装など自分が興味をもった文化、あるいは国について調べ、ポスターにまとめる。	調べ学習 ・インターネット ・書籍
	16	『誰がつくる？私たちがつくる すてきな環境』(ごみ問題) 6 「ラオスクイズ②」 ・ごみが捨てられた町の様子から、ラオスの抱える課題・現状を知る。	ラオスの写真
	17～19	7 「住みたい理想の環境を考えよう」 ・もしも日本でごみが回収されなかったら？を考える。 ・ごみ問題で困った環境ではなく、住みたい理想の環境を考える。 ・理想に近づくためには何が必要か考える。 (個人レベル・集団レベル・政府レベルそれぞれについて考える)	派生図 マトリクス 絵に表わす
	20	8 行動宣言をしよう ・ラオスの取り組みも知り、課題解決のため、これから自分が取り組んでいこうと思うことを宣言する。	
成果	<p>児童が世界と肯定的に出会い、次の興味へと繋がることを重視して導入部分の授業を行ったことで、子どもたちは「もっと知りたい・調べた」という気持ちを強くもつことができたようだった。ラオスのごみ問題についても、他人事ではなく自分たちに引き付けて考えることができていた。</p>		
課題	<p>最後に行動宣言を考えたと際、小学生の自分たち一人一人にできることは少ないと感じている児童も見られた。小さな積み重ねが大切だと話し合ったが、実際に行動を起こし、それを継続していくためには、今後も様々な場面で考えていくことが必要であると感じた。</p>		
備考			

相生の自然




C
16

所属	岐阜県郡上市立相生小学校	実践者	小池 美也子
対象	小学4年生	時間数	50時間
場所	教室・川原・山・学級園	実践教科	総合的な学習の時間・社会科
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの川に関心をもち、川の様子を調べたり、川で遊んだりする中で、ふるさとの川の美しさや素晴らしさに気付く、愛着や誇りをもち、大切にすることができる。 ・貴重な水を持続的に確保するために何ができるかを考え、取り組もうとする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	私と自然との関わり(総合) ・相生の自然のイメージを広げる。特にその中で、川との関わりに絞り、学習の見直しをもつ。	【ブレーンストーミング】 模造紙・マジック
	2	アユの放流体験(総合) ・郡上漁業協同組合がアユを放流する様子を見学。実際に放流体験をさせていただき、川に住む生き物への関心を高める。→生き物調べ	【体験・観察】 協力: 郡上漁業協同組合
	3	川を大調査(総合) ・川の中をのぞいたり、生き物をつかまえたりして、川の様子をつかむ。カワゲラをつかまえて、川の水質を調べ、川のきれいさを知る。	【調査】 カワゲラウォッチング
	4	植林体験(郡上市みどりの祭り) ・植林体験を通して、山と川のつながりについて理解を深める。	【体験】主催: 岐阜県緑化推進委員会
	5	水はどこから(社会) ・単元の導入として、水を使用する場面と使用量のマッチングクイズを行い、水が欠かせないことやたくさんのお水を使っていることを知る。 ・水を守るため(汚さない・節水)の3箇条を決め、1週間取り組む。	【マッチングクイズ】 【水を守るための3箇条】
	6	山の働きを調べよう(総合) ・ペットボトルや川にある材料を使って濾過器を作り、山の働きを知る。	【実験】参考: ボルヴィック「お水の教室」
	7	川を楽しもう(総合) ・工夫して川で遊び、川で遊ぶ楽しさを知る。 →川に落ちているごみに関心をもち。	【体験】 釣り、水切り、流木アート、ストーンアートなど
	8	ごみの未来(総合) ※社会科「ごみのしよ理と利用」と関わらせて ・自然にもどるごみともどらないごみの違いを知り、川にごみを捨てることが環境にどのような影響を及ぼすのかを考える。	【実験】畑に様々なごみを埋め、定期的に掘り起こし、変化を調べる。
	9	アマゴ養殖場見学(総合) ・自然を生かして行われている川魚の養殖の見学を通して、ふるさとの自然の豊かさについて学ぶ。	【見学】 場所: 校区内の養殖場
	10	学習発表会(総合) ・みんなに伝えたいメッセージをまとめ、発表する。	【発表】 ポスターセッション
	11	20年後の相生(総合) ・20年後、どんな相生の自然であってほしいかを考え、そのために自分たちができることを見つけ、実行する。	【因果関係図】
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を設定することができ、実際に自然と触れ合う中で、自然の豊かさ、大切さに気付かせることができた。さらに、自分にできることを考え、実際に行動する段階まで実施できた。 ・児童の気付きを次の学習につなげ、学びを深めていくことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長良川下流域の小学校と交流したいと考え、計画を始めた。しかし、実施内容や時期の調整が難しく、まだ実施できていない。川はみんなのものであること、一人一人が大切にしなければ守れないことを理解するためにも、実施できると良い。 		
備考			

タイトル





環境問題から考えるアジア共生

C
17

所属	愛知県立横須賀高等学校	実践者	小島 裕美
対象	高校1年生	時間数	4時間
場所	教室	実践教科	英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会において、日本は隣国と政治、経済、環境全ての面で密接な関係にあることを知る。 ・今後、アジアの国々、特に中国との信頼関係を深めていくために、環境面から考察を深める。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1. 「アイスブレイキング」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国・韓国・台湾などアジアの世界遺産10枚写真を見せ、興味のある世界遺産を1つ選び、4人1組になるように分ける。その世界遺産に対する知識を共有して、発表。 <p>2. 「中国と日本の関係は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4の用紙に、中国に対するプラスのイメージとマイナスのイメージの対比表を作る。 ・逆に日本が中国に及ぼしていると考えられる、良い影響と悪い影響を対比表にしてみる。 <p>3. 「環境面から互いの国を見つめ直してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国⇄日本の間での、環境問題は何か？ポップコーン方式で発表。 ・環境問題の記事(英文)を各自読む。 ・感じたことをグループで共有する。 	
	2~3	<p>「ポスター作成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と同じグループに分かれ、A3用紙に読んだ記事を英語でまとめる。 ・疑問に思ったことを質問形式で英語で書き出す。(A3用紙) ・記事を読んで感じたこと、意見をグループ内で共有し、英語でまとめる。(A3用紙) 	
	4	<p>1. 「発表練習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で2人発表者、2人聞き手として、まとめたことを発表し、英語でのやりとりを行う。 <p>2. 「ポスターセッション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10グループに分かれ、聞き手2名が各グループに移動して発表を聴き、英語でのやりとりを行う。(各セッション10分程度) <p>3. 「振り返り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Evaluation Sheet に互いの評価を記入し、相手に渡す。 	
成果	環境問題は、一国だけの問題ではなく隣国にも大きな影響を与えているのだということに生徒たちが気づくことができた。共生していくためには、自国の利益にばかりとらわれず、協力し合わなければならないと考える良いきっかけとなった。		
課題	英語で文章を読み、まとめるということにかなり時間がかかり、意見や考え方を深めるところまで十分にはできなかった。		
備考	参考文献: Newsbreaks for basic English Learners 2013 協力者: William Fitch (本校ALT)		

ごみの山から見えてくる地球の未来

C
18

所属	静岡県浜松市立双葉小学校	実践者	櫻井 利幸 (L)
対象	小学4年生	時間数	8時間
場所	清掃工場・双葉小学校	実践教科	社会・総合
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃工場の見学を通して、廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりについて知る。 ・ラオスを知って身近に感じ、ラオスの課題について考える。 ・参加型学習を通して、自分たちができることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～4 (4時間)	【日本の廃棄物処理を知る】 ・清掃工場の見学 ・ゴミの分別収集などの習慣 ◇日本のゴミ処理技術やゴミ収集のシステムを知る。	浜松市西部清掃工場 (校外学習)
	5	【わたしの夢・あなたの夢】 ・浜松ってどんなところ ・ぼく、わたしの夢 ◇日本・浜松の良さや自分の夢、今夢中になっていることを絵で表現して、ラオスの子どもたちに紹介する作品を作る。	紹介する絵 
	6	【行ってみたらこんなところ】 ・ラオスクイズ ・どうしようゴミの山 ・働く子どもたち ◇ラオスで見えてきた実情をクイズ形式で紹介する。ゴミ問題が大きな社会問題になっていることを写真を見て考える。たくさん子どもたちが家族のために働いている現状を知る。また、ラオスの子どもたちが描いたラオスの良さを紹介する。	パワーポイント資料 
	7	【貿易ゲーム】 ・貿易ってどういうこと ・先進国と途上国 ◇「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考える。先進国と途上国の格差を知り、途上国の人たちの思いを考える。	新・貿易ゲーム 
	8	【わたしたちの未来】 ・青年海外協力隊の人の話 ・自分たちにできること ◇協力隊の人の話を聞き、自分たちにできることを考える。	フォトランゲージ 
成果	子どもたちはラオスの様子を写したスライドや現地で手に入れた実物を見せることで興味をもって活動した。同じ年代の子どもたちのくらしや夢を共有することでラオスを身近に感じていた。		
課題	日本とラオスの経済格差を貿易ゲームを通して体感できたが、資源や技術など詳しく説明しないと理解が難しい場面も見られた。発達段階に応じたゲームに変えていく必要があると感じた。		
備考	資料: 開発教育協会・神奈川県国際交流協会「新・貿易ゲーム」		

タイトル

世界は自分につながっている！

C
19

所属	静岡県三島市立東小学校	実践者	二井 はるみ
対象	小学6年生	時間数	4時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人、多様な国と肯定的に出会う。 ・人や国の同一性、多様性を理解し、よりよい関係を築くために、自分にできることを考える。 ・世界が抱える課題の背景や原因を知り、地球の一員として自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界の国々と肯定的に出会う ○Meet The World クイズを解き、 「おもしろいと思ったこと」 「自分と違う考え方や方法で驚いたこと」 をグループ、全体で共有する。 ○「外国から見た日本」について書かれた文章を読み、各自の考えを グループ、全体で共有する	クイズ 「Meet The World」 資料 「外国から見た日本」
	2	多様性を認める社会のよさや豊かさについて考える。 ○多様性を否定するとどうなるか、多様性を受け入れるとどうなるか、 それぞれ派生図を使って考える。 ○多様性を認める社会にするために、 「自分にできること」「仲間とできること」「大人に提案したいこと」 を考え、全体で共有する。	・派生図
	3	世界が現在抱えている問題を知る。 ○配布された担当国の資料を読み、それぞれの国がどのような課題を 抱えている考える。 ○「貧困」「環境」の課題に繋がる原因を考え、グループで因果関係図 を作る。 ○自分と関係のある原因を考え、グループ、全体で共有する。	・因果関係図
	4	原因から解決策を考え、今自分にできることを考える。 ○自分が関係する「原因」を「解決策」に変える方法を考える。 ○「世界の課題を解決する9つの方法」を読み、ランキングする。 ○わたしがこれから始める行動を全体に発表する ○全体の学習を通して、思ったこと、考えたことをふりかえる。	・ランキング方式
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国のおもしろ情報をクイズ方式で知ることにより、肯定的な理解ができた。 ・派生図、因果関係図などの方法を自分の生活と結びつけながら考えるよう声かけをしたことで、自分の生活を見直し、世界という大きな問題を考えることができた。 ・参加型のグループ学習によって、普段あまり活躍のない児童も発言の場ができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性、貧困、環境問題等、様々な問題を盛り込みすぎ、テーマが広がりすぎてしまった。 ・担任をしている学級での授業ではないため、授業前と後との変容のとらえが不十分であった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・担任ではない6年生2学級で実施。クラスによって、反応や意見も異なり、参加型による学習の広がりのおもしろさとまとめの難しさを感じた。 		

ラオスの現状から見えてくるもの

C
20

所属	三重県立四日市商業高等学校	実践者	弓矢 伸一
対象	高校3年生	時間数	2時間
場所	情報処理教室	実践教科	3年生選択授業 課題研究
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスと肯定的に出会い、課題について考える。 ・日本を客観的に見る視点を持つ。 ・参加型の学びを通じて、生徒の知識、興味関心、気づきを引き出す。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	ラオスってどんな国？ ①どこにあると思う？ ②日本からどうやって行くの？ ③教師海外研修で撮ったラオスの写真をみる。 ラオスについて自分で調べてみよう ①通貨や日本との物価比較、 ②日本との輸出入の貿易データ ③ラオス旅行者のお土産品、ベスト3は？ ④「タマリンドキャンディ」の試食	①パワーポイント ②ラオス研修の画像
	2	ラオスで働く日本人 ○ラオスで働く協力隊員や専門員たちのコメントを写真やコメントの中から、「やりがい」や「苦労」を見つける。 日本の現状とラオスの課題について ①経済発展とその弊害を考える ②環境破壊とその予防策 ③女性の人権について考える、特に教育	ラオス研修の画像と動画
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズや画像を通じてラオスと肯定的に出会い、興味、親しみを感じることができた。 ・データや現地スタッフのコメントからラオスの課題を知り、積極的に考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテータに徹するように努めたが、参加型授業がなかなか難しい。 ・ラオスの持つ課題を考え、今の日本の現状を深く考えさせる展開が少し弱かった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年でフェアトレードを学習しているので、開発途上国の抱える問題への理解が早かった。 		

タイトル

世界に生きる、世界をつくる！

D
21

所属	愛知県立刈谷北高等学校	実践者	浦部 紗矢 (G)
対象	高校2年生(国際理解コース生徒)	時間数	6時間(50分×2×3回)
場所	本校化学室	実践教科	国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を尊重し、異文化理解を楽しむ。 ・外国と日本とのつながりに気づき、自分の生活も世界に支えられていることに気づく。 ・世界で起こっている問題を知り、自分にできる解決策を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「グローバル化する社会 だから世界はおもしろい！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界とのつながりに気づこう →教室の中にあるもの、カードマッチング、鎖国ゲームを通して世界と自分の生活とのつながりに気づく 2. 様々な国、様々な生活 →いろいろな国の人に変わってその国の特徴や文化を紹介した後、「わたしの当たり前=あなたの当たり前？」を読む 3. ガーナってどんな国？ →PPTを使ってガーナの町並みや生活を紹介する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. つながりカード、模造紙、マーカー 2. 配布物(各国紹介資料等) 3. ppt 資料
	2	<p>「支え合う世界の国々 困っている国がある!？」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰だって自分の国に誇りがある！ →ガーナの文化・歴史についてのクイズの後、外国人に伝えたい日本の良さや日本の好きなところを考える 2. 大震災が起こったそのとき… →東日本大震災に対する各国の支援のデータや英語の記事を読む 3. 世界に困っている人がいる！原因は？ →環境に関する資料と「伝説のスピーチ」を読み、情報を交換する 4. 「私たちにできること」 →環境のために自分にできることを考え、班ごとにまとめて発表する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ppt 資料、模造紙、マーカー 2. ppt 資料、配付資料 3. 配付資料 4. 模造紙、マーカー、ふせん
	3	<p>「全ての原因は貧困？ よりよい世界を作るために…」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガーナの教育事情 →公立・私立の学校の写真や現地の方の意識から気づいたことを発表する。お金があればより良い教育が受けられるのか？ 2. 貧困ってどういうこと？ 貧困から人々を救え！ →貧困の資料を読み、「貧困の輪」から改善の手立てを考える。また、フェアトレードやマイクロクレジットの概念と意義について知る 3. 世界のために頑張る日本人 →ガーナで支援を行う日本人の支援内容と想いを知り、もし自分が青年海外協力隊に応募するなら…という仮定で、協力できる分野を考える 4. あなたも私も住みやすい、理想の社会7 →大人になったら作りたい社会を考え、班ごとに発表する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真、ppt 資料、配付資料 2. 貧困の輪カード、配布資料、フェアトレード商品 3. ppt 資料、配付資料 4. 模造紙、マーカー、ふせん
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換などの活発な活動を通して、自分の意見を持つことの大切さに気づいた生徒がいた。 ・事後アンケートを実施したが、多くの生徒が「『もったいない』の気持ちが育った」「フェアトレードのチョコレートを買った」「青年海外協力隊に興味が出た」など、自分にできる国際貢献の道を考えるようになったと答えた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解コース生徒を対象にしたものの、「海外に興味がないため、特に自分の生活に変化がなかった」と答えた生徒がいた。生徒の興味を事前に確認し、それに見合った内容を提供することの必要性を感じた。 		
備考	実施授業は、学校設定科目の「国際文学研究」と「総合英語」である。		

タイトル



世界で働く日本人

D
22

所属	静岡県浜松市立豊岡小学校	実践者	江間 成昭 (G)
対象	小学5年生	時間数	7時間(45分間×7回)～
場所	教室	実践教科	学活、道徳、総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナ(外国、自分の知らない世界)の良さに気付く。 ・ガーナ(アフリカ)の課題<貧困の輪>と、各分野で活躍する日本人について知る。 ・自分だったらどの分野で活躍したいかを考え、目指す職業像(目標像の人でもよい)をもつ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	I. 日本とガーナのつながり、ガーナの良さに気付く。 ①野口英世の生涯と、ガーナとのつながりを知る。 <読み聞かせ>	千円札、野口研の写真
	2	②ガーナクイズを通して、ガーナの面白さ・良さを知る。 <クイズ>	パワーポイント資料 アサラド(楽器) ガーナTシャツ
	3	II. ガーナ(アフリカ)の貧困の輪と、各分野で活躍する日本人について知る。 ①貧困とは何かを話し合い、アフリカの貧困について知る。 <ブレインストーミング>	資料「絶対的貧困という暮らし」
	4	②貧困の輪を作る作業を通して、貧困の原因を考える。 <因果関係図>	貧困の輪
	5	③貧困の輪の1つである「教育」の課題と活躍する日本人について知る。 <対比表、フォトランゲージ>	学校や生活風景の写真、日本人のインタビュー動画
	6	④その他の課題と活躍する日本人について知り、「技術」が日本の援助のキーワードであることに気付く。	
	7～	III. 自分だったらどの分野で活躍したいかを考え、目指す職業像(実際の人物でもよい)をもつ。 ①要請一覧表を見て、様々な分野で日本人が活躍していることを知り、自分が活躍したい分野を1つ選ぶ。 ②目指す職業について調べ、目指す職業像をもつ。または、その職業の第一人者など、目標像となる人物について調べる。	青年海外協力隊・日系社会青年ボランティア要請一覧表
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と海外の違いを知ることで、海外の良さとともに日本の良さも分かった。 ・海外の人のために働いている日本人を知り、自分が目指す職業像(生き方)のヒントを掴んだ。 ・お互いの考えを伝え合うことで、考えが深まるという学習体験をすることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本学習の必要性を、児童達にもたせることが十分にできなかったと思う。 なぜ海外、なぜガーナか。なぜ日本が国際協力をする必要があるのか。 ・クイズも動画も精選が必要。同じことをし続けると、集中力が切れる。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なねらいは、①異文化の良さを知ること、②海外の人のために働く日本人を知ることでもいいと思う。自分の目指す職業像・目標像はヒント程度に掴めればよいのではないか。 		

共に生きる～新蟹っ子が考える、世界中の人々が笑顔になれる方法～

D
23

所属	愛知県蟹江町立新蟹江小学校	実践者	佐古 亜希子 (G)
対象	小学6年生	時間数	60時間
場所	教室 家庭科室 体育館など	実践教科	総合的な学習の時間 家庭科他
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々や人々に興味を持ち、共通性・多様性を楽しむことができる。 ・日本、世界の課題に、自分たちができていることを考え行動することができる。 ・自分たちが学んだこと考えたことを、発信することができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～10	※5年生のときに「世界の国旗」 国旗の由来から国を知り、世界の国々を知る ↓6年生へ	仮説社 世界の国旗
	1～3	【幸せって何だろう?】(ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら) ①アイスブレイキング ②世界の人口 ③女性と男性どっちが多い? ④大陸ごとに分かれてみよう ⑤世界の言葉でこんにちは ⑥文字が読めない? ⑦100人村を読むディスカッション	世界がもし100人の村だったら
	4・5	【ハンガーバンケット】(食事を通し、世界の格差を模擬体験) ①高所得層、中所得層、低所得層の住人にくじ引きによって分ける。②「世界」の「食事(質、量)」を実際に体験し、自分にできることを考え、行動に移す。	オックスファムの体験型ワークショップ
	6・7	【日本・世界ではどんなことがおこっているのか、現実を知ろう】(日本国際飢餓対策機構の清家さん出前授業) ①世界・日本の現実 ②今の自分にできること ③どんな大人になるのか?	
	8・9	【振り返りトーク】(アイスブレイキング+今後について) ①初めて知ったトーク ②印象に残ったものトーク ③問題点は何か? ④今の気持ちを伝えよう	
	10～13	【先生ガーナへ行く】(ガーナ&アフリカって?) ①ガーナって?②チョコだ!!③フェアトレードについて④先生に調べてきてほしいこと⑤自分たちのできること	DVD パワポ
	14～19	【名古屋分散に向けて】(JICA中部とピース愛知で何を学ぶ?)	
	20～25	【名古屋分散 JICA中部 ピース愛知へ】(JICAの仕事 シリアについて 戦争について)	
	26・27	【アフリカ?】(マラウイ 出前授業)	
	28～35	【お帰り先生 ガーナ編】(ガーナで学んだこと) ①ガーナで学んだことクイズ ②ガーナを食べちゃおう ③ガーナで頑張っている人々 ④ガーナ貧困の輪から断ち切る方法 ⑤10箇条作り ⑥ガーナのゴミ問題から ⑦ガーナ人の考えを聞いて ⑧ガーナのゴミ問題どうしたらいい? ⑨ゴミの負の連鎖から断ち切る方法 ⑩地球サミットの背景 ⑪日本のゴミ問題は? ⑫ゴミを生かさそう(ポーチ作りへ) ⑬地域へ宣伝しよう	パワポ ガーナBOX 派生図 ガーナでの写真 ゴミから再生したポーチ
	36～40	【お帰り先生 ラオス エチオピア フィリピン ガーナ 大学生出前授業】(海外研修や青年海外協力隊を終えた先生方の出前授業)	
	41～43	【今の僕・私たちにできること】(学習発表会の台本作り)	
	44～46	【フィリピン ホープ合唱団来校】(19人の小中学生招待)	
	47～60	【共に生きる 学習発表会で】(ここまでの国際理解教育で学んだことを練習発表・本番+フィリピンへ何が出来るのかを急ぎよ台本に加え本番に動く) ↓(活動予定) 【夢実現】(卒業式でどんな大人になるのか、どんなことをしていきたいのか宣言する)	
成果	6年生の総合的な学習の時間だけでなく、他教科との絡みも考え授業を展開してきたことは時間の無駄はなかった。また、そのことで子どもたちの普段の生活に国際理解、世界中の人々が共に生きるためにどうしたらよいのかということを常に考えることができた。ガーナだけでなく本物を意識した授業を進めてきた。フィリピンの地震に対して自分たちがしてもらったことは何だったのかを考え動き発信できたことは目標につながったと思う。		
課題	自分の体験が少なく、たくさんの人々に支えられこのような実践ができた。自分自信が子どもに伝えられるものを身につけていかなければならない。どの学年でも取り組むことができるようこれからも年度始めに計画を立てていきたい。		
備考	どの授業の中でもワークショップ型を取り入れていくことで子どもたちへの意欲を高めた。また先生方の研修でもワークショップ型を取り入れ、広めることでどの学年でも取り組むことができるよう努めた。		

多文化共生を考えよう

D
24

所属	はままつ国際理解教育ネット	実践者	畠中 順也
対象	中学生～一般	時間数	4時間
場所	浜松市多文化共生センター	実践教科	国際理解教育ファシリテータ養成講座
ねらい	浜松市では多文化共生社会を推進しているが、現実にはあまり進んでないのが実情である。そこで、市民を対象に、参加型学習を通じて様々な課題を知り、理解し、行動を起こす力を育むことを目的とする。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 (10分)	【異なるあいさつ】—アイスブレーキング 次々とペアを作り、様々な国のあいさつを実際に体験する。(全体で実施)	異なる文化の人に会った時の感覚を疑似体験する。
	2 (45分)	【外国人に対する偏見】(グループ作業) ①外国人犯罪率データから偏見が生まれる理由を因果関係図にまとめる。 ② 回覧形式で、ほかのグループの結果を見て、様々な意見を知る。	偏見が生まれる原因について考える。
	3 (20分)	【価値観を知るビンゴゲーム】—アイスブレーキング 次々とペアを作り、用紙に書かれた質問をしていく。お互いの答えが一致したら(価値観が一致)正解とする。(全体で実施)	自分の価値観が他人とは違うことを知る。
	4 (25分)	【異文化に端を発する日本人と外国人のトラブル】 ① 実際に起こったトラブルをテーマに、解決するためにできることを日本人と外国人の立場で話し合う(グループ作業) ② 結果を発表する(全体)	みんなで知恵を出し合い解決策を考えることで、多文化共生社会を考える。
	5 (30分)	【地域社会で外国人の子供たちの教育問題を考える】 ① 外国人の子供の教育問題を話し合うロールプレイを実施し、様々な立場の人の気持ちを体感する(グループ作業) ② 外国人の子供たちが教育を受けないことで地域社会に影響を及ぼす問題点を派生図にまとめる(グループ作業) ③ 回覧形式で、ほかのグループの派生図を見て、様々な意見を知る(全体)	外国人の子供の教育について、学校関係者だけに任せるのではなく、地域全体で考えることにより、外国人も社会の構成員であることを認識する。
	6 (15分)	【多文化共生パネルトーク】 外国駐在経験のある日本人、浜松に住む外国人と日系移民の方による生の異文化体験談	ワークショップを机上の空論で終わらせないために、生の声を聴く。
	7 (5分)	【ふりかえり】 今日の講座で感じたこと、気付いたこと、学んだことを書く。(個人作業)	文書化することで意識の定着化を図り、行動変革に繋げる。
成果	①合計 24人参加(5人×4チーム、4人 1チーム) ②参加者のアンケート結果を見る限り比較的好評で、多文化共生を考え、行動に移す気づきを与えることができたと思う。 ③次世代を担う中学生、大学生などの若者が沢山参加して頂き、アイスブレイクやグループ討議などを通して、ワークショップの楽しさを体感していただいた。 ④新たにパネルトークコーナーを設けて、生の異文化体験談を聴く機会ができた。		
課題	①多文化共生がテーマなのに、外国にルーツをもつ人の参加が 1 名だけであり、日本人と外国人の数が半々のグループ討議が実現できなかった。 ②アクティビティが盛り沢山だったため、途中で時間が足りなくなってしまう、十分なグループ討議ができなかった。アクティビティの数を減らして時間に余裕を持たせ、更に深く掘り下げたグループ討議が必要と感じた。		
備考	●ファシリテータは 4 人で担当した		

タイトル

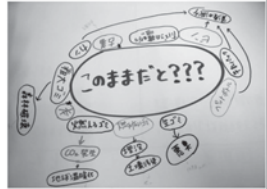
For the world peaceD
25

所属	愛知県安城市立里町小学校	実践者	服部 郁子 (G)
対象	小学6年生	時間数	35時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	ガーナを中心に世界の文化や生活に触れ、世界には豊かな多様性がある一方、貧困、人権、環境などの課題があることを知る。それらを自分にも関係する人類全体の問題であると気づき、仲間と共に解決方法を考えて実践する中で、よりよい未来を築こうとする力を育む。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-3	Meet the world ~多様な世界とこんにちは~ ○世界の国々の名前や世界地図に親しみ、多様性に触れる。 ○自分の当たり前は、世界の当たり前でないことを認識する。 ○多様性を認める社会のよさや豊かさについて考える。	『私たちの地球と未来』 (愛知県国際交流協会)
	4-6	ガーナを知って多様性をもっと考えよう ○ガーナクイズを通して、日本との共通点と相違点を知る。 ○みんな違ってみんないい?それ、本当? ○違っていても幸せじゃないこと	ガーナ研修の画像 ガーナBOX ガーナの食べ物
	7-9	世界と私たちはつながっている ○自分—日本—世界のつながりに気づく。 ○多様性から世界が見える。 ○負の連鎖について考える。	『私たちの地球と未来』 (愛知県国際交流協会) 国際理解実践資料集 (JICA地球ひろば)
	10-12	For the world peace ~世界の平和のために~ ○私たちにできること ○世界で活躍する日本人 ○For the world peace 活動計画	講師派遣 JICA中部青年海外協力隊 ガーナ隊員
	13-16	For the world peace ~今できることをやろう~ ○総合の発表に向けて準備をしよう ○クラスで中間発表会をしよう	
	17-19	For the world peace ~未来に向けて~ ○発表会：発信しよう！私たちの活動 ・総合を通して学んだことを、学校や地域の人たちに知ってもらおう。 ○活動を終えて	児童自作の展示物
○成果	・多様性を肯定的にとらえる活動と、身の回りのものが世界とつながっているという学習を十分行ったことで、外国に対して親近感を持つことができた。その結果、よくない多様性(課題)を、多くの児童が、遠い外国のこととしてとらえるのではなく自分たちにも関係する問題としてとらえ、何とかしたいという気持ちをもつことができた。		
課題	・「平和のために自分たちにできること」を班ごとで取り組ませたため、自分のアイディアが通らなかった児童や、友達に任せてしまう児童を作ることになってしまった。個人であるいは自発的にグループを作らせるなど、自主性に任せるなど、児童がより達成感もてるように工夫する必要がある。		
備考	・各グループに常時、色マジックとA3の紙を用意し、派生図や対比表などに取り組めるようにした。		

タイトル

国際協力 いつやるの？ 今でしょ！！

D
26

所属	岐阜県立岐阜商業高等学校	実践者	和田 さとみ (L)
対象	高校1・2年生	時間数	2時間(50分×2コマ 5クラス)
場所	北舎4階 メディアホール	実践教科	英語(コミ英 or 英語Ⅱ)、LHR
ねらい	<p>A 知る 開発途上国と日本のつながりを知る、アジア圏の開発途上国(ラオス)に肯定的に出会う。</p> <p>B 気づく・考える ラオスと日本とのつながりや同一性に気づく。</p> <p>C 越える よりよい未来づくりのために、開発途上国と先進国 共通の課題について、越えるための解決策を見つける。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1時間目 10分休憩 2時間目	<p>【 Ice Breaking 】 開発途上国・先進国 ってどんな国？</p> <p>①グループA4対比表でイメージ出し ←抽出2グループ発表</p> <p>A : 開発途上国と日本のつながりを知る・「ラオス」を知る</p> <p>②「依存大国日本」を見て日本と開発途上国との関係を知る。</p> <p>③日本とラオスの貿易関係を知る。 ↑抽出2グループ感想発表</p> <p>④ラオス地理クイズ(国土面積・人口・国旗・国花・人)</p> <p>⑤ラオス文化クイズ(2枚セットのクイズから1つを選んで出題)</p> <p>⑥ラオス価値観クイズ(ラオス人なりきり自己紹介)</p> <p>⑦民族音楽と共に、ラオスDVD(風景・食べ物・人)を知る。</p> <p>◎正解が多かったグループに、景品としてラオス刺繍ストラップを贈呈 ラオスの歴史・文化(衣・食・住)に触れる。(展示見学、及びドライフルーツチップス試食)</p> <p>B : ラオスの課題に気づく・考える</p> <p>①一枚のラオスの写真提示。環境問題「ごみ」に気づかせる。</p> <p>②派生図…ゴミの種類を B 紙に書きだす。次にそのゴミがこのまま増え続けるとどうなっていくか考える。</p> <p>③意見共有…ギャラリー方式で他グループのB紙を見学する。他グループのB紙に意見を鉛筆で書き足しをしてもよい。</p> <p>④現状を知る…ラオスでは、かつて竹細工やバナナの葉などを生活日用品として使用していたことを伝える。</p> <p>⑤B 紙に★…もし自然に還る素材のものを使ったら消える問題は何かを考える。B 紙に★をつける。</p> <p>⑥ 問題提起 では、一体どこからビニールはやってきたのか？</p> <p>先進国から便利なビニールがやってきて、十分ゴミ処理が追いついていない現状に気づく</p> <p>C : 共に越える</p> <p>⑦B 紙にラオス・先進国と書き、課題解決方法を考える ←抽出2グループ発表</p> <p>⑧JICA ラオスの環境問題に対する実際の活動状況を知る</p> <p>⑨今私たちにできることを考える(国際協力に取り組む高校の2事例を紹介)</p> <p>⑩「世界の課題を解決する9つの方法」の紹介・ランキングを実施</p> <p>⑪ラオス青年海外協力隊 本間さんのメッセージを聞く ↑</p> <p>⑫振り返りシートに記入 抽出2グループ発表</p>	<p>A4(対比表)</p> <p>JICA DVD「依存大国日本」 2012年、財務省貿易統計</p> <p>ユニーク文化紹介写真 ラオス人写真 自作ラオス文化紹介VTR① ラオス刺繍ストラップ ラオスBOX・試食コーナー</p> <p>課題に気づく写真 B紙(派生図) マーカー</p>  <p>【成果物】「このままゴミが増え続けると?」</p> <p>B紙(対比表) 自作ラオスJICA活動紹介 VTR② 高校生にできる国際協力の紹介 「わたしたちの地球と未来」活用マニュアル 自作ラオス協力隊メッセージVTR③ A4振り返りシート</p>
成果	<p>【生徒の振り返りシートより】 先進国と途上国のつながりを知ることができた。ラオスについて知り、途上国に興味関心を持つことができた。自分自身の生活の仕方について見つめ直すきっかけになった。国際協力に興味を持つことができた。</p>		
課題	<p>① 共に越える部分でJICA以外にもNPO、NGO、企業等も様々な国際協力を行っている事実を一言加えるべきだった。</p> <p>② 100分×5クラスで実施したが、クラスによってはIce Breakingが十分でなく、一連の活動に行き詰まるがあった。</p>		
備考	<p>JICA HP、及び DVD 『依存大国日本』、2010年 名古屋国際センター—HP 『世界のこと、もっと知ってもらいたい! ~高校生の国際協力活動~』 愛知県国際交流協会 『わたしたちの地球と未来』活用マニュアル</p>		

こんなオトナになってみたい

E
27


所属	愛知県瀬戸市立水野中学校	実践者	加藤 篤 (L)
対象	中学3年生 (100名)	時間数	4時間
場所	3年1組～3組 教室	実践教科	社会科+総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスと出会うことを契機に、外国の文化や習慣を肯定的に捉えられるようにしていく ・ラオス (外国) に貢献できることを考える中で自分を見つめ、夢や可能性を膨らませていく 		
実践内容	回	プログラム	備考
	第1時 第2時	ラオスに出会ってみよう! 1. アイスブレイキング 2. 写真クイズ「ラオスってどんな国？」 写真とその裏に書いてある解説を元に、ラオスに関するクイズを作成し、ラオスに対するイメージを持たせる。 3. ロールプレイ「牛から垣間見えるもの」 牛の写真から状況を想像し、班ごとに話し合う。その後、学校の写真から日本の学校との共通点や相違点について表にまとめ、発表する。	PPT 写真資料 クイズ 牛の写真 ロールプレイ 対比表
	第3時	ラオスが抱える課題 1. アイスブレイキング 2. フォトランゲージ 「働くラオスの人々」 絵を描く少年、紙漉をする少女、機織りをする女性、クッキーを作る障害者、看護師らの写真を配り、裏に書いてある説明を元に彼らの生活状況や背景について話し合う。 3. 統計資料から見えるラオス 統計資料を読みとり、そこから見えるラオスの課題を班で話し合う。 4. 課題を解決するためにどのようなアプローチをとるか班ごとに考え、発表する。	PPT 働く人々の写真 フォトランゲージ 統計資料 対比表 プレゼンテーション
	第4時	外国で仕事、してみませんか? 1. アイスブレイキング 2. こんな事でもラオスに貢献できますよ～ 実際ラオスに派遣されているJOCV、専門家の人たちの紹介を写真や映像で行う。 3. 外国でこんなことして働きたーい 自分を見つめ、今自分ができただけでなく、将来に自分がどんな力を身につけて外国で働いてみたいかを想像し、発表する。 4. まとめ ・授業の感想を書く	PPT 写真、映像 ワークシート
成果	生徒にとっては未知の国であるラオスを使って授業をしたが、生徒たちは積極的に取り組み、些細なことでも面白いと感じ、好奇心をもち続けてくれた。どんなことでもやりたいと思えば、それが国際貢献に繋がっていくことも分かってくれた。		
課題	ロールプレイでは楽しそうに演じているが、いざ自分で考えるとなると妙にかしこまってしまい、自分の考えを上手く表現できない生徒が多かった。また、ラオスが抱える課題については統計資料以外の資料も用意し、生徒たちに多くの情報を与えておかないと学びが深まらないと感じた。		
備考	ファシリテーターをやってみて、自分自身が楽しくできた。いつもの授業ではなかなか見られない生徒たちの様々な考えを知り、表情の変化を捉えることができたのは得るものが多かった。2月以降に、今回の授業の続きを計画している。		

グローバル社会で生きるって

所属	名古屋市立菊里高等学校	実践者	川口 茉莉 (G)
対象	高校2年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	英語
ねらい	<p>①自国の文化を振り返り、自分がすでに持っている日本文化に対する認識や価値観を見つめなおすとともに、異文化を知ること、文化背景を異とする人々と、お互いの文化の違いを尊重しながら相互理解を図り、協力関係を築くことができるようにする。また世界の多様性を知り、多様な人に出会うことの楽しさを実感する。</p> <p>②世界のグローバル化やボーダレス化が進む中、温暖化、食糧不足、人口爆発といった地球規模の様々な問題が出現している。地球的視野を持ち、地球規模の諸問題を自らの問題としてとらえ、主体的に考え、解決にむけ行動できる資質・能力・態度を育成する。</p> <p>③グローバル化の時代を生きていくことや国際協力の在り方について考える。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	0	事前アンケート（教師海外研修前） ガーナについて知っていること、地理で習って知ったことを確認。	
	1	「ガーナについて知ろう」 ①ガーナクイズ ②ガーナ人になりきってみる。 ③ ガーナのものに触れる。	パワーポイント 実物(チョコレートなど)
	2	「世界の環境問題を知り、解決策を考えよう」 ①教科書の内容を理解する。(今回の実践外) ②火星のテラフォーミングについて、討論を行う。 ③絵の半分が白紙になっている環境問題を考える漫画を完成させる。 ④日本および世界の環境問題について知り、改善策を考える。 ⑤再度、火星のテラフォーミングについて、討論を行う。	教科書 国際理解教育教材マンガ A4用紙
3	「世界のために働くことを考えよう」 ①教科書の内容を理解する。(今回の実践外) ②地雷を撤去するために、生徒たち自身ができることを考え、意見を述べさせた。 ③ガーナで活躍する JICA ボランティア、専門家を動画で紹介し、寄付に頼らない国際協力の在り方を考えさせた。 ④国際協力はどうあるべきかについてエッセイを書く。 ⑤グループで意見を共有。	教科書 ガーナで活躍する日本人を紹介する動画 A4用紙	
成果	海外には興味がない、英語を勉強するのは大学受験のためと答える生徒が最初は非常に多かったが、少しずつ海外に行ってみたい、国際協力の現場に携わりたいといってくる生徒が出てきた。ガーナに対するステレオタイプや世界の課題が自身と関わっていることに気づき、世界で起こっている問題を解決するには、私たち自身が変わらなければならないということに気づいた。		
課題	今年度は年間を通じた長期計画による活動ではなく、教科書に関連づけて取り組んだので、単発の活動になってしまった。		
備考	1.「ガーナについて知ろう」については音楽科3年に対しても実施。		

世界とつながる生き方・進路を考える

E
29

所属	静岡県立藤枝東高等学校	実践者	五藤 聡 (G)
対象	高校2年生	時間数	4時間(65分×4)
場所	社会科教室、体育館	実践教科	地理B、総合学習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナや世界と日本における同一性、多様性を肯定的にとらえる視点を養う。 ・発展途上国の現状や南北問題について考え、持続可能な国際協力の在り方について学ぶ。 ・自分と世界のつながりを意識し、世界とつながる生き方や進路について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【ガーナ研修の報告会「国際協力の舞台」】 (@体育館) ①パワーポイントを使って、ガーナで感じたこと、経験してきたことを学年集会で報告した。世界の多様性を肯定的にとらえる視点を養い世界と自分とのつながりについて考えた。	Google Earth ガーナクイズ JICAのHP ガーナ実物教材 (農作物ほか)
	2	【新・貿易ゲーム】 シミュレーションゲーム ①地理Bの単元「流通と消費」の中で「新・貿易ゲーム」をやった。4タイプの国(先進工業国、新興国、資源保有国、後発発展途上国)に分かれ、各国が知恵をしばって製品の生産、貿易、経済外交などを行い、世界経済の動きを疑似体験した。	開発教育協議会 『新・貿易ゲーム』 ※ゲーム後のふりかえりこそが重要
	3	【新・貿易ゲームのふりかえりと、南北問題】 ①「世界の家族になりきって自己紹介」フォトランゲージ「多様性」「同一性」「肯定的」をキーワードに取り組んだ。 ②「新・貿易ゲーム」のふりかえり 前時の感想をまとめたレジュメをもとにゲームを振り返り、経済面での世界とのつながり、また現実世界で起こっている貿易や様々な問題について考えた。 ③「自由貿易とは？」ブレンストーミング 自由貿易の在り方や南北問題についてグループで話し合い、全体で国際協力の必要性について考えを共有した。	『地球家族』の写真はネットからダウンロード 
	4	【ガーナで活躍する日本人と、自分の進路】 ①「ムハンマドさん一家を救え！」ロールプレイ 資料を読み、グループで貧困やその解決法について話し合った。 ②「持続可能」な国際協力とは？ ガーナで活躍する協力隊・専門家のインタビュー映像を見て、国際協力の在り方や、ガーナが直面する課題について学んだ。 ③世界とつながる生き方や進路は？ 配布した進路資料をもとに、世界を舞台とする職業や国際協力について調べ、大学や職種などそこに繋がる進路を考えた。	YouTube 『ガーナで国際協力を行う青年海外協力隊・専門家』ほか 『PARTNER』:国際協力の求人情報HP
成果	地理Bの既習内容と、同時期に行った海外修学旅行での経験が土台となり、この国際理解教育実践がスムーズに進んだ。彼らがこれまで漠然と考えてきた国際社会について、自分とどのような関わりがあるのか、国際社会の中でこれからどのように生きていけばいいのか、より深く考えることができた。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業でもこうした参加型手法を用いていきたい。生徒たちはとても楽しそうだった。 ・国際社会に通じる職業や大学について、自分自身もっと勉強が必要だ。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・外務省『平成25年度国際協力重点方針』 ・朝日新聞社『世界を舞台に仕事がしたい』 ・旺文社『蛍雪時代』 		

オレのすること、できること

E
30

所属	三重県 私立海星高等学校	実践者	小林 一憲 (G)
対象	高校3年生	時間数	2時間
場所	本校第2体育館	実践教科	特別編成授業
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊、ボランティア、専門家の存在、活動を知り、興味を持って自分のできることについて考える。 ・「外の世界」を知ることの面白さ、楽しさを知り、知らないことへの恐れを無くす。 ・何事も「吸収する」「学ぶ」という主体的な意識を持つことで自分自身の肥やしにする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 席替え ○ アイスブレイキング(自己紹介) ○ 世界の国々との関係性を知る <ul style="list-style-type: none"> ① 「もし、日本が完全に“鎖国”をしたら…??」 ⇒現在の生活の中で海外との取引がなくなった場合、存在しなくなるもの、また大幅に減るものは何かをグループで考えさせる。 ⇒各グループで出したものを2つずつ挙げさせる。 …日本と世界の関わりがとても密であることを意識させる。 ② JICA の事業 ⇒資料を配り、熟読させ、気になった3カ所に線を引かせる。 ⇒各人が知った JICA の取り組みについてグループ内で説明させる。 	グループ分けのポップ A4 用紙、水性マジック A3 用紙 JICA パンプ
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界で活躍する日本人の活動 ⇒ガーナで活躍する日本人へのインタビューの紹介 ○ 今日の世界における課題 ⇒今日、世界で起こっている様々な課題とはどんなものがあるかを各グループで挙げさせる。 ○ 国際協力とは何か 知る→気付く→行動する→継続する→定着する =「SUSTANABLITY」⇒片淵さんのお話の紹介 ○ 自分のできること <ul style="list-style-type: none"> ①自分の得意なこと、人のために発揮できる力 ⇒自分の特技について考えさせる ⇒各グループで発表し、それぞれの「貢献」について知る。 ②今日からできること ⇒グループでまず何ができるか、統一した意見を挙げさせる。 ⇒グループで出した意見を発表させる。 	写真、ムービー ムービー	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが JICA について「知らない」から「知っている」へと変化した。 ・国際協力に関するキーワードである「SUSTANABLITY」について考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・何度かの継続的に授業を実践することで、より興味を持ってもらえるように練りこむ。 ・きちんと成果を保存し、次回に繋げる必要がある。 		
備考			

タイトル

ラオスを通して考える、わたしの○○

E
31

所属	愛知県立熱田高等学校	実践者	早川 修平 (L)								
対象	高校2年生	時間数	3時間(50分×3)								
場所	教室	実践教科	ホームルーム								
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの生活や文化に触れ、ラオスを含む途上国について肯定的に知る。 ・海外で活躍する日本人の活動から、自分の進路についてふりかえる。 ・途上国が抱える問題について知り、その問題を解決するために自分ができることを考える。 										
実践内容	回	プログラム	備考								
	1	<p>～ わたしが大切にしているもの ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ アイスブレイキング ～バースデーチェーン～ 【10分】 ◆ LAOS クイズ 【15分】 ◆ 私が大切にしているものって何だろう? 【25分】 <p>☆ なりきり自己紹介 自己紹介内容 名前・年齢・職業・大切にしているもの</p>	<p>PPT 資料、写真、A4用紙、ペン</p> <p>私の大切なもの 家族や心の落ち着く 人と過ごす時間</p>								
	2	<p>～ わたしが今できること ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 前回のふりかえり 【5分】 ◆ アイスブレイキング ～4つのわたし、1つはウソ～ 【10分】 ◆ ラオスの森林を救え!! 【35分】 <p>☆ 派生図、ブレインストーミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ わたしに今できること! <p>☆ 今わたしにできること 3か条</p>	<p>PPT 資料、写真・映像、A4用紙、模造紙、ペン</p> <p>今私にできること3か条</p> <p>① 辛い、きついと思う事をゴリこずる</p> <p>② 人とのつながりを大事にする</p> <p>③ あきらめない、感謝</p>								
	3	<p>～ 貧困の悪循環を断ち切るためにわたしにできること ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 前回のふりかえり 【5分】 ◆ 貧困とは何か?? 【20分】 <p>☆ 因果関係図</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 貧困の悪循環を断ち切るためには?? 【20分】 <p>☆ 貧困の悪循環(カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ わたしが「やれる、できる、頑張る!」【5分】 <p>☆ 「やれる、できる、頑張る!」を宣言する。</p>	<p>PPT 資料、A4用紙、ペン、模造紙、配布資料「年収450ドル以下の暮らし」、貧困の悪循環を断ち切るための事例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>断ち切れること</th> <th>少し努力すればできること</th> <th>頑張れば実現できること</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募金活動に参加する。</td> <td>フリマの出品を買う。</td> <td>海外ボランティアに参加し、現地に行く。</td> </tr> <tr> <td>貧困の事実を他人と共有する。</td> <td>ボランティア活動に参加する。</td> <td>現地で実際の生活を体験し、関係はづらす!</td> </tr> </tbody> </table>	断ち切れること	少し努力すればできること	頑張れば実現できること	募金活動に参加する。	フリマの出品を買う。	海外ボランティアに参加し、現地に行く。	貧困の事実を他人と共有する。	ボランティア活動に参加する。
断ち切れること	少し努力すればできること	頑張れば実現できること									
募金活動に参加する。	フリマの出品を買う。	海外ボランティアに参加し、現地に行く。									
貧困の事実を他人と共有する。	ボランティア活動に参加する。	現地で実際の生活を体験し、関係はづらす!									
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像を通じてラオスと肯定的に出会い、ラオスに対しての興味・関心が高まったように感じた。 ・生徒たちはプログラムの中で、大切なものをふりかえり、これからの行動を考え、環境問題・貧困・国際協力など大きな課題について向き合うことができた。 ・参加型を通して、生徒たちの新たな一面を見ることができた。また、生徒たちが他人の意見に耳を傾けること、自分自身の意見をしっかりと伝えることができるようになったと感じた。 										
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時間を確保することができなかつたため、少ない時間の中でのプログラムとなってしまった。したがって、ねらいを十分に伝えきることができなかつたと感じる。特に自分の進路についてふりかえる時間は足りなかつたと思う。少ない時間のなかでも伝えたいことをしっかりと伝えられるプログラムの構成が今後の課題である。 										
備考											

世界は「わたし」からはじまる

E
32

所属	岐阜市立境川中学校	実践者	割石 裕美子 (G)
対象	中学1年生	時間数	10時間
場所	教室	実践教科	社会科
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの貧困が日本を含め先進国と深い関わりがあることを理解することができる。 ・アフリカの発展のために、JICA専門家・協力隊・企業やNGOの方々など様々な人が援助活動を行っていることを知り、その生き方に「あこがれ」をもつことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	<u>○アフリカはどんなところだろう？</u> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカについて知っていること・イメージをポストイットに出来るだけたくさん書きこむ。(個人作業) ・順番に書いたことをB紙に貼りながら発表し合う。(グループ作業) ・さらにポストイットをグループ化して貼りなおし、それぞれにコメントを書いてまとめ、学級で発表をする。 ・実際のアフリカはどんな様子だろう？→ガーナのパワーポイントを見て、イメージとのギャップを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B紙 ・ポストイット(大) ・プロッキー 「ここもガーナ あそこもガーナ」 (パワーポイント)自作
	3	<u>○アフリカの農業・産業の特色を知ろう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナクイズ！！ ・農業・産業の特色を教科書・資料集で確認をする。 	「ガーナクイズ」 (パワーポイント)自作
	4～6	<u>○カカオ農園で働く人々はなぜ貧しいのだろう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガーナのカカオ農園」(ビデオ)を視聴し、なぜカカオ農園で働く人々が貧しいのか理由を交流しあう。 ・先進国とガーナとの関わりを知る。 ・2枚のチョコレートを食べてみて感想を交流しあう。 ・2枚のチョコレートの説明が書かれた「チョコレートパズル」を班で組み合わせる。 	世界が100人の村なら 「ガーナのカカオ農園」 ビデオ ・スーパーのチョコ ・フェアトレードチョコ 「チョコレートパズル」 (自作)
	7～9	<u>○アフリカはどのような課題を抱えているのだろう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカが抱えている問題を教科書や資料集を使って調べ交流する。 ・「あいのり」(エチオピア編)ビデオの視聴をする。 ・アフリカの課題解決のために、ガーナで活躍する日本人を紹介する。 ・ガーナで活躍する日本人の生き方に触れる。 	「あいのり・エチオピア編」ビデオ 「ガーナで活躍する日本人」写真・DVD
	10	<u>○ガーナを楽しもう</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ボスクさんからガーナを学ぼう。 ・ガーナのじゃんけん(アンペ)を楽しもう！ ・ガーナを食べよう！(ガーナの食べ物紹介) 	ガーナのチョコレート
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の授業に変え、「教える授業」から「考える授業」になり、生徒の変容を感じることができた。 ・様々な人の生き方に触れ、海外で活躍する日本人にあこがれと誇りをもつことができた。 ・「アフリカ」を肯定的にとらえることができ、固定観念について振り返ることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要領の時数とずれるため(かなり授業時数をかけるため)、年間を通して違う単元で時数をあわせる必要がある。 		
備考	「チョコレートパズル」(自作)は、「マジカルバナナ」(地球の木)のバナナカードを参考にして作成した。		

ことばとコミュニケーション

F
33

所属	愛知県立豊橋聾学校	実践者	加藤 亜紀子
対象	小学生～一般(ESDに関心のある人)	時間数	2時間
場所	JICA 中部 なごや地球ひろば	実践教科	国際理解教育セミナーin なごや 2014
ねらい	<p>・障害のある人や外国人など、コミュニケーション手段の異なる人とのコミュニケーションでは、相手に合わせたコミュニケーション手段を組み合わせる活用することが大切であることに気付く。</p> <p>・相手を受容し、自分の思いをきちんと伝えることができるコミュニケーションに必要なことは何かを考える。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	5分	ペア作りと自己紹介 ➤ 受付で色紙を引いておき、その色紙でペア作りをし、自己紹介する。	ペア作り用の色紙
	25分	アクティビティⅠ(ペア)「これって、コミュニケーション？」 ➤ ①「そうだね」、②「そうだね、でも」、③「そうだね、じゃあ」と3つの異なる設定のコミュニケーションを体験し、感想を全体で共有する。 ➤ よりよいコミュニケーションを成立させるために、必要なことを出し合い、ペアでリストアップする。	シナリオカード (聞き手用、話し手用) 話し合いのテーマ ①友達に渡すプレゼントは何かよいか？ ②このあと食事に行くならどこ？ ③週末に旅行に行くならどこ？
	5分	アクティビティⅡ(全員)「パースデーライン」 ➤ 声を出さずに誕生日の早い順に並び、ことばを使わないコミュニケーションを体験する。ラインを使って、グループ替えも行う。	
	35分	アクティビティⅢ(グループ)「ことばを使わないコミュニケーション」 ➤ 書きことばや話しことばを使わないでシチュエーションカードに書かれたことをグループの人に伝える。 ➤ ことばを使わないコミュニケーション手段をポップコーン方式で思いつくまああげる。	シチュエーションカード (例) ・ホテルのシャワーが出ないので修理してほしい ・おなかが痛くて、トイレに行きたい
	30分	アクティビティⅣ(グループ)「聞こえない人とのコミュニケーション」 ➤ グループの一人が聴覚障害者(疑似体験)になり、その状態で旅行の計画について話し合う。 ➤ 途中で、「火災発生、部屋の外へ避難」と指示をだし、部屋の外へ全員避難させる。 ➤ 話し合いや避難を通して、聴覚障害者の思いや健聴者の感想を共有し、聴覚障害者とのコミュニケーションについて考える。	携帯音楽プレーヤー
	20分	振り返り・まとめ「宣言！よりよいコミュニケーションのために」 ➤ これまでのアクティビティを振り返り、わかったこと、気づいたこと、考えたことと私の行動宣言を各自用紙に書く。 ➤ 最後に一人一人発表し、まとめとする。	ワークシート
成果	段階的にコミュニケーションについて考えられるようアクティビティを配置したことにより、参加者が前のアクティビティで考えたことを使ったり、生かしたりすることができた。行動宣言にまとめることで、学びを行動へ繋げる一歩になるのではないかと感じた。		
課題	騒音を音楽プレーヤーで聞き、外部の音をシャットアウトすることで聴覚障害者の疑似体験をしたが、現実の聴覚障害者の聞こえ方やコミュニケーションは一人一人異なり、多様である。聴覚障害者をステレオタイプでとらえることになってしまったのではないかと反省がある。		
備考	国際理解教育セミナーのワークショップの一つとして、協力隊 OB チームとして実施。参加者は16名だった。ワークショップの協力者は、青年海外協力隊及び日系青年社会ボランティア OB 2名		

高校1年生です。自分に自信が持てません…

所属	愛知産業大学三河高校	実践者	桑名 晃一
対象	高校1年生(20名)	時間数	5時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な現状を知る ・世界が抱える課題(グローバルイシュー)と、それを解決しようとする日本人の存在を学ぶ ・自分を主観的／客観的にふり返り、受け入れようとする 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【多様な世界】 ・世界の現状クイズ(国の数、人口など) ・国あてゲーム(班ごとに知っている国の名をリスト化) ・人の多様さに気づく(目玉焼きには何をかける?)	資料 ・世界地図 ・わたしの当たり前=あなたの当たり前? (*)
	2	【違いは豊かさ】 ・世界の現状クイズ(宗教、言語など) ・人の多様さに気づく(部屋の四隅) ・違いを認めるむずかしさに気づく(資料を読み話し合う)	資料 ・もし、〇〇が禁止されたら(*)
	3	【世界の課題】 ・世界が抱える課題(資料を読み話し合う) ・課題を解決しようとする日本人(青年海外協力隊 DVD) 赴任国、活動内容、グローバルイシューについて話し合う	資料 ・世界がもし100人の村だったら ・DVD「青年海外協力隊—そして世界は広がった」
	4	【貧困の輪】 ・貧困の定義(貧困ってどんな状態?) ・貧困の連鎖に気づく(貧困カード) 班ごとにカードを並べ替えながら話し合う	資料 ・貧困カード(*)
	5	【高校生の私】 ・日米中韓の高校生の意識を知る(資料を読む) ・震災後の海外からの評価を知る(資料を読む) ・過去をふり返り、未来を想像する(タイムライン)	資料 ・高校生生活意識調査(内閣府) ・10 things to learn from Japan
成果	世界から日本、そして自分へという流れを意識してプログラムを組み立てた。日本人や高校生のことを客観的にふり返ることで、「自信がないことに“少し”安心し、「将来を“少し”ポジティブに」考えることができるようになったのではないかな。		
課題	各時間のテーマをより丁寧に扱いたい。アクティビティや資料提供の方法をもっと多様に、かつより参加してもらえる形へと改善していきたい。		
備考	資料の(*)は「世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来活用マニュアル」(愛知県国際交流協会)より抜粋した。		

コミュニケーションと幸せの関係

F
35

所属	(公財)名古屋国際センター交流協力課	実践者	竹内 桃子
対象	高校生～一般	時間数	2時間(120分)
場所	名古屋国際センター 第一会議室	実践教科	国際カレッジ2013
ねらい	価値観の違い、認識のずれ、受け手の状況によって「幸せ」とはいえない状況に陥る場合がある。だれもが「幸せ」と感じられる人間関係を築けるようなコミュニケーションの方法をともに学び、多文化共生社会の実現のために自分ができることを考え、行動への一歩を促す。		
実践内容	回	プログラム	備考
		<p>①アイスブレイク:自己紹介 1:(GW)グループ全員にあてはまることを3つ以上探す</p> <p>②ワーク:「私とコミュニケーション」 1:(個人)私が普段使うコミュニケーション(BS) 2:(GW)共有、良い意見があれば自分の紙に追加 3:(個人)ミスコミュニケーションでヒヤッとした経験があるものに○ 4:(GW)3について共有 ☞価値観の違いがもたらしたミスコミュニケーションをふりかえる ☞コミュニケーションの方法が多様になり、気軽に、手軽につながる事ができるようになった社会。その一方で、手軽に発信したために、配慮や尊敬の念を見落とし、他人を傷つけてしまうことがある。便利な世の中になっても、変わらない、大切にしなければならないものに気付く。</p> <p>③ディベート:「リチャードのキス」 1:(全体)キスが発端で起こった、文化の違い、ミスコミュニケーションによる事件について共有する 2:(GW)「あなたは、リチャードを許す?許さない?」というテーマで、「○許す派」「×許さない派」のロールプレイカードを読み、それぞれの立場からディベート 3:(GW)気付きを共有。それぞれが大事にしていたことは何か ☞ディベートは、勝敗をつけるものではなく、異なる価値観を心情的に理解する目的で行う。ここではロールプレイ方式とする ☞ロールプレイカードは、自分の意見と一致するものとは限らない</p> <p>④ワーク:「幸せなコミュニケーションのために、育てたい価値観」 1:(GW)今後の幸せなコミュニケーションのために、自分が実践できることを考える</p>	<p>準備物 ①アイスブレイク ★名札×人数</p> <p>②ワーク ★裏紙×グループ数 ★マーカー×グループ数</p>  <p>③ディベート ★ストーリー資料×人数 ★封筒×グループ数 ★ロールプレイカード (グループ内で○×が半々に分かれるように事前に封筒の中に入れる) ★模造紙×グループ数</p> <p>④ ★模造紙×グループ数</p> 
成果	多文化共生社会の実現に向けたメッセージを託し、インドで起こった事件をもとにオリジナルのワークを作成した。インド出身の女性が参加したが、意見共有の際、参加者全員が彼女に耳をかたむけ、優しい眼差しで理解しようとする姿勢が見られ、WSの効果・価値を実感した。		
課題	②「私とコミュニケーション」では、参加者の年代によって、「コミュニケーション」の捉え方が異なる。臨機応変な対応が必要である。		
備考	当日は、参加者23名のうち、3名(台湾・インド・メキシコ)が外国人の参加だった。様々な国籍の方に参加していただくと、より生きるWS。		

貧困と幸福

F
36

所属	名古屋市立菊里高等学校	実践者	土屋 有美
対象	高校2年生	時間数	2時間半
場所	L.L 教室	実践教科	プレゼンテーション、ビデオ、絵本
ねらい	<p> Bangladesh と日本を比較し、貧困の現状を知る。そこから、物質的に豊かな日本に住むが幸せか、はたまた周りとの強い結びつきを維持した Bangladesh に住むが幸せか。本当に幸せにくらすとは？と考える。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1. 今年度の抱負 各々A4の紙に今年の抱負を書く。様々な意見があることを知る。</p> <p>2. 貧困ってどんな状況？ 「貧困」という言葉から連想するものを何でも派生図に書いていく。</p> <p>3. 貧困の悪循環を考える。 貧困の要因になるカードを配布。どうして貧困から抜け出せないかを知る。</p> <p>4. Bangladesh についてのプレゼンテーション Bangladesh のナートル村に住むあるシングルマザーの絵本を読む。 Bangladesh で貧困地域にすみ、シングルマザーであることの困難さをする。同時に、村の中で女性と、女性団体をつくり、急な貧困状況になった場合お互いに助け合えるよう状況を作り出したことをつたえる。</p> <p>5. ふりかえり 本日学んだことをグループの仲間と共有。</p>	<p>アイスブレーキング</p> <p>ギャラリー方式で見て回り、他グループのアイデアを知る。</p> <p>プレゼンテーション 絵本</p>
	2	<p>1. 前回のふりかえり。 前回から覚えていることを共有。</p> <p>2. Bangladesh のストリートチルドレンのビデオを見る。 子供たちが貧困によって住む場所を追われたり、厳しい状況にあることを知る。</p> <p>3. Bangladesh と日本のいいところ・悪いところ 模造紙に Bangladesh のいいところ悪いところを図にリストアップさせる。</p> <p>4. 自分の幸せとは？ 自分がどんな時に幸せを感じるか5つ挙げてみる。書いてからグループで共有。</p> <p>5. 幸せの指標とは？ GNHの指標を予測してみる。幸せとは何で測られるのか考えてみる。</p> <p>6. 本当の幸せとは？ グループで話し合っ模造紙にリストアップしてまとめてみる。</p> <p>7. ふりかえり (同上)</p>	<p>YouTube Plan International</p> <p>模造紙</p> <p>A4用紙</p> <p>模造紙・グループワーク</p> <p>模造紙・グループワーク</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の貧困への認識が深まり、現在の生活の豊かさを再確認させることができた。 グループワークを通して多様な意見を知ることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 時間配分をうまくできなかったので、時間をしっかり区切るべきだった。 10分間のプレゼンやビデオを見る時も生徒の参加を促せるよう工夫が必要。 		
備考			

タイトル

ラオスから広がるわたしたちの世界

F
37

所属	名古屋市立香流小学校	実践者	服部 咲 (L)
対象	小学6年生(103名)	時間数	4時間(45分/時間)以上
場所	体育館	実践教科	総合
ねらい	ラオスをきっかけに、途上国と肯定的に出会い、途上国の抱えている課題と先進国との関わりについて学ぶ。そして、先進国に生きる者としてこれからできることを考え、他の国についても関心をもって意欲的に調べ、伝えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	【ラオスってどんな国？】 ① ラオスクイズでラオスについて知る。 ② 「ラオスとは〇〇な国」クイズを見たラオスのイメージを発表する。 ③ 発展途上国と先進国について知り、はじめにもったラオスのイメージと途上国を知ってからのラオスのイメージを比較する。	Power point(全体で使用) ポップコーン方式
	2回	【大切なものってなんだろう？】 ① 自分にとって「生きていく上で大切なもの」をグループで共有する。 ② 「生きていく上で大切なもの」が守られること＝「人権」が守られることと結びつける。 ③ 人権が守られないとどうなるかを考える。 ④ 人権が守られていない状態の一つに「貧困」という状態があることを知る。 ⑤ 「貧困」の状態を具体例でイメージする。 ⑥ なぜ「貧困」な状態になるのかを考える。 ⑦ 「貧困＝かわいそう」ということではないことに気付く。	ブレインストーミング 派生図 貧困の輪カード
	3回	【つながっている世界】 ① 身の周りで外国とつながっているものを考え、外国とのつながりが自分たちの生活を作っていることに気付く。 ② 自分たちの生活が途上国とつながり、途上国の貧困を作り出していることに気付く。	ポップコーン方式
	4回	【わたしたちにできること】 ① 途上国の貧困を断ち切るために自分たちにできることを考える。 ② 世界で活躍する日本人の存在や、途上国を支援する団体のことを知り、「できること」の視野を広げる。	ブレインストーミング XY 座標
	5回～	【わたしたちから伝えよう】 自分が興味をもった国や団体について詳しく調べ、発表する。	調べ学習
成果	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが生活している世界以外に目を向け、視野を広げることができた。 グループや全体で意見を交換することで様々な意見を受け入れ、自分の考えを深めることができた。 興味をもった国や団体について詳しく調べ、発表することができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> さらに学びを深めるためには、年間を通した長期計画が必要。 他の教職員に対して理解・協力を得ることが必要。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> 3クラス合同授業を体育館で一斉に実施。 4～6人のグループを事前に作り、各クラス担任にはTTとして協力してもらった。 		

タイトル

フィリピンと日本のあることないこと

F
38

所属	愛知県日進市立香久山小学校	実践者	山崎 恭兵
対象	小学高学年生	時間数	1時間(45分)
場所	日進市立香久山小学校 蟹江町立新蟹江小学校	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンと日本の文化の相違点を知り、諸外国への興味・関心を持たせる。 ・フィリピンの現状を知り、貧困状況の中でも夢を持っているフィリピン人を紹介し、夢を持つことの大切さに気づかせる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	5分	【自己紹介】 目的はアイスブレイク。講師である私の「現在」、「趣味」、「夢」、「目標」を紹介し、子ども達に親しみをもってもらうことで話を聞き入れやすくさせる。	PowerPoint を使用
	2分	【フィリピンの紹介】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国名の正式名称 ・ 国名の由来 	
	10分	【フィリピンの地理学】 ～フィリピンを日本と比べてハイ&ロー！！～ <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口 ・ 島の数 ・ 出稼ぎ労働者の数 ・ 米の消費量 	
	10分	【フィリピンの食文化】 ～食文化のクイズ～ <ul style="list-style-type: none"> ・ パナナの食べ方 ・ フィリピン料理のお味は？ ・ 珍味バロット ・ フィリピンのマクドナルド 	
	10分	【実際にいってみて…】 <ul style="list-style-type: none"> ・ スモーキーマウンテン ・ 児童施設訪問 ・ 首都マニラの現状 	
8分	【エンディング】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夢を持つことの重要性 ・ スライドショー 		
成果	多くの児童がフィリピンの文化について関心をもち、今の自分たちが幸せな状況であることに気づくことができた。また、夢や目標を持つことの大切さにも気づくことができた。		
課題	フィリピンと日本の現状は安易には比較できない。特に、人生観は文化的背景や経済状況が異なるので単純に比較することが難しいと感じた。		
備考			

タイトル

“幸せ”って何だろう？

F
39

所属	愛知県 津島市立藤浪中学校	実践者	山田 浩子 (L)
対象	中学1・2年生	時間数	5時間
場所	教室	実践教科	社会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの文化を知り、自分たちとは異なる国をありのままに受け止められるようになる。 ・自分の生活や日本の豊かさに気づき、周りの人や日常を大切にすることができるようになる。 ・幸せとは何かを考え、自分なりの意見をもつことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【ラオスってどんな国？】 ・ラオスクイズ ・ラオスの“びっくり”を知る。＜フォトランゲージ＞ ・ラオスの写真を見て、どんな暮らしをしているか想像する。 ＜なりきり自己紹介＞	パワーポイント
	2	【センサー始動！君はラオスのSOSをキャッチできるか？】 ・1枚の写真から、ラオスの「ここがいいね！」と思うところと「ここが問題じゃない？」と思うところを見つける。 ・ラオスの課題から「貧困」を取り上げ、貧しいと何が困るのか考える。 ＜派生図＞ ・貧困の連鎖を考える。	B紙 貧困の連鎖カード
	3	【君が動く ラオスが変わる】 ・資料を読んで、ラオスが抱えている課題を知る。 ・ラオスの貧困の連鎖を断ち切るために、自分なら何ができるか考え、発表する。	
	4	【あなたは今、幸せ？】 ・「自分が幸せだな」と感じるときを付箋に書いて、班の中で共通する項目ごとに分類する。＜KJ法＞ ・“私たちの幸せ5か条”をつくり、発表する。＜指標づくり＞	付箋、B紙 ブータンの国民総幸福量(GNH)の指標を紹介
	5	【幸せって何だろう？】 ・資料を読んで、日本が抱えている課題を知る。 ・ラオス人と日本人の大切にしているもの、将来の夢などを紹介する。 ・幸せとは何か、自分なりの考えをまとめる。	パワーポイント 現地でのアンケート 事前アンケート
成果	<p>様々なアクティビティを通して、ラオスの課題や世界の現状などを実感を伴って学習することができた。その結果、“幸せとは何か”というこれまであまり考えたことのなかったテーマにも真剣に取り組む姿が見られ、外国を通して自分を見つめなおすいいきっかけとなった。</p>		
課題	<p>アクティビティに慣れていなかったため、一つ一つの作業に時間がかかってしまい、班で話し合う時間が十分に取れなかった。</p>		
備考	<p>参考図書：『日本がもし100人の村だったら』（池上彰 著、協力・池田理代子、マガジンハウス）</p>		